TOSTEM

お施主さま用

サッシ・雨戸・窓シャッター・窓まわり商品 玄関ドア・引戸

取扱い説明書

ご使用にあたって

●商品のご使用前にこの説明書をよくお読みいただき、いつでもご覧頂けるように大切に保管してください。

販売店・工務店・建設会社の皆様へ
この取扱い説明書は施工後、お施主様へお渡しください。

LIXIL
Link to Good Living

はじめに

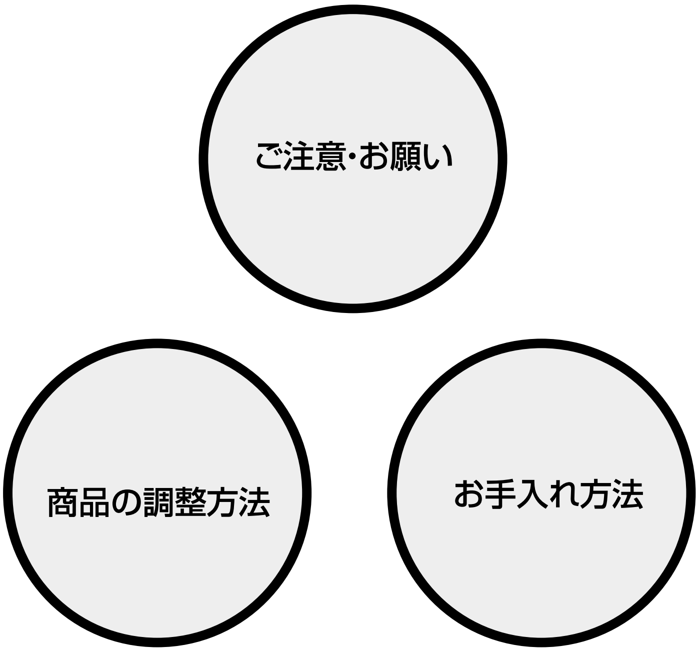
　このたびは、当社商品をご採用いただき誠にありがとうございます。

　本書は、商品をながく安全にお使いいいただくための、主なご注意･お願い及び商品の調整･お手入れ方法などをまとめたものです。

　本書をよくお読みいただだいた上で、当社商品をご使用いただきますようお願いいいたします。

　なお、電動商品等の特別な機能を有している商品や特有な操作方法がある商品については、別途、個別の取扱い説明書がありますので、併せてご覧ください。

本書の構成上の3つのポイント



目次

第1章　安全にお使いいただくために …… 2

第2章　窓及びドアの種類 …… 4

第3章　商品別ご使用上の注意とお願い
　及び各部の調整方法について
1. 引違い窓・網戸 …… 6
・窓の開け方・閉め方 …… 7
・クレセント錠の調整 …… 7
・戸車の調整 …… 8
・気密ピースの調整 …… 8
・下枠の清掃方法 …… 8
・障子のはずれ止めの調整 …… 8
・障子のはずし方 …… 9
・網戸の調整・はずし方 …… 9
2. 上げ下げ窓・網戸 …… 11
・窓の開け方・閉め方
・窓の清掃の仕方
・網戸のはずし方
3. たてすべり出し窓・網戸 …… 12
・窓の開け方・閉め方
・網戸のはずし方
4. 横すべり出し窓・網戸 …… 12
・窓の開け方・閉め方
・窓の清掃の仕方
・網戸のはずし方
5. ガラスルーバー窓・網戸 …… 13
・窓の開け方・閉め方
・網戸のはずし方
6. オーニング窓・網戸 …… 13
・窓の開け方・閉め方
・網戸のはずし方
7. 内倒し窓・網戸 …… 14
・窓の開け方・閉め方
・障子の開き角度の調整
・網戸のはずし方
8. 外倒し窓 …… 14
・窓の開け方・閉め方
9. 片引き窓・網戸 …… 15
・窓の開け方・閉め方
・障子の調整
・網戸のはずし方
10. 出窓・網戸 …… 15
・窓の開け方・閉め方
・網戸のはずし方
11. 天窓 …… 16
・窓の開け方・閉め方
12. 窓シャッター …… 17
・各部のなまえとはたらき …… 19
・窓シャッターの開け方・閉め方 …… 20
・連窓方立の取外し方・取付け方 …… 21
・点検 …… 21
・お手入れのしかた …… 22
・窓シャッターが動かない場合 …… 23
13. 雨戸 …… 23
・雨戸の開け方・閉め方
14. 窓手すり …… 23
15. フラワーボックス …… 24
16. オープンウィンフォールディング …… 24
・操作方法 …… 24
17. 玄関ドア …… 26
・ドア部品名称 …… 26
・ドア部品の操作・調整方法 …… 27
18. 引戸 …… 33
・引戸部品名称 …… 33
・引戸部品の調整方法 …… 34

第4章　お手入れ方法（清掃方法）
1. アルミ製商品のお手入れ …… 39
2. 樹脂製商品のお手入れ …… 40
3. 鋼板製商品のお手入れ …… 40
4. 鋼板ドア・引戸表面材のお手入れ …… 41
5. 網戸のお手入れ …… 41
6. ドア・引戸用鍵のお手入れ …… 42
7. FRPドアのお手入れ …… 42

第5章　商品のご使用にあたって
1. 窓の結露について …… 43
2. 窓シャッターについて …… 43
3. 二重サッシの雨水の浸入について …… 43
4. 断熱ドア・引戸の熱ソリについて …… 44
5. 玄関ドア・引戸などからの雨水浸入について …… 44
6. 玄関ドア・引戸からの音鳴り現象について …… 44
7. 玄関ドア・引戸の表面温度について …… 44
8. ガラスの熱割れについて …… 44

第6章　窓の性能について
1. 水密性 …… 45
2. 気密性 …… 45
3. 断熱性 …… 46
4. 遮音性 …… 46
5. 耐風圧性 …… 46
6. 防犯性 …… 46

第7章　アフターメンテナンスについて …… 47

第8章　商品の保証について …… 48

第1章 安全にお使いいただくために

商品をご使用いただく上で、人身事故や財産の損害を未然に防止するために、守っていただきたいこととして下記のような警告表示をしています。内容をよくご理解の上、商品をご使用ください。

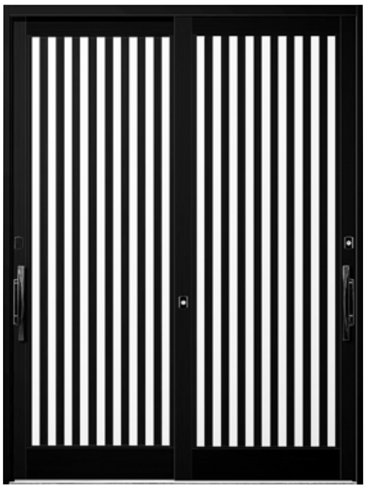
警告用語の種類と意味

警告用語	意　　味
⚠注　意	取扱いを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。 商品毎の冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。
お　願　い	特に注意を促したり強調したい情報で、指示に従わないと機器の損傷・故障につながる場合があります。

第2章 窓及びドアの種類

窓／ドアの種類（室外から見た写真です）

1. 引違い窓	4. よこすべり出し窓	7. 内倒し窓
		 ※この写真のみ室内から見た写真です
2. 上げ下げ窓	5. ガラスルーバー窓	8. 外倒し窓
3. たてすべり出し窓	6. オーニング窓	9. 片引き窓

10. 出　窓	13. 雨　戸	16. オープンウィンフォールディング
11. 天　窓	14. 窓手すり	17. 玄関ドア
12. 窓シャッター	15. フラワーボックス	18. 引　戸
		

第3章 商品別ご使用上の注意とお願い及び各部の調整方法について

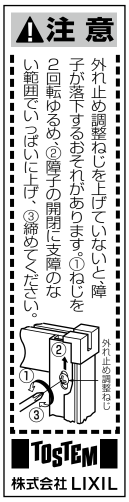
1. 引違い窓・網戸

※はずれ止めの近くに表示ラベルを貼付してありますので、ご覧ください。

⚠ 注　意

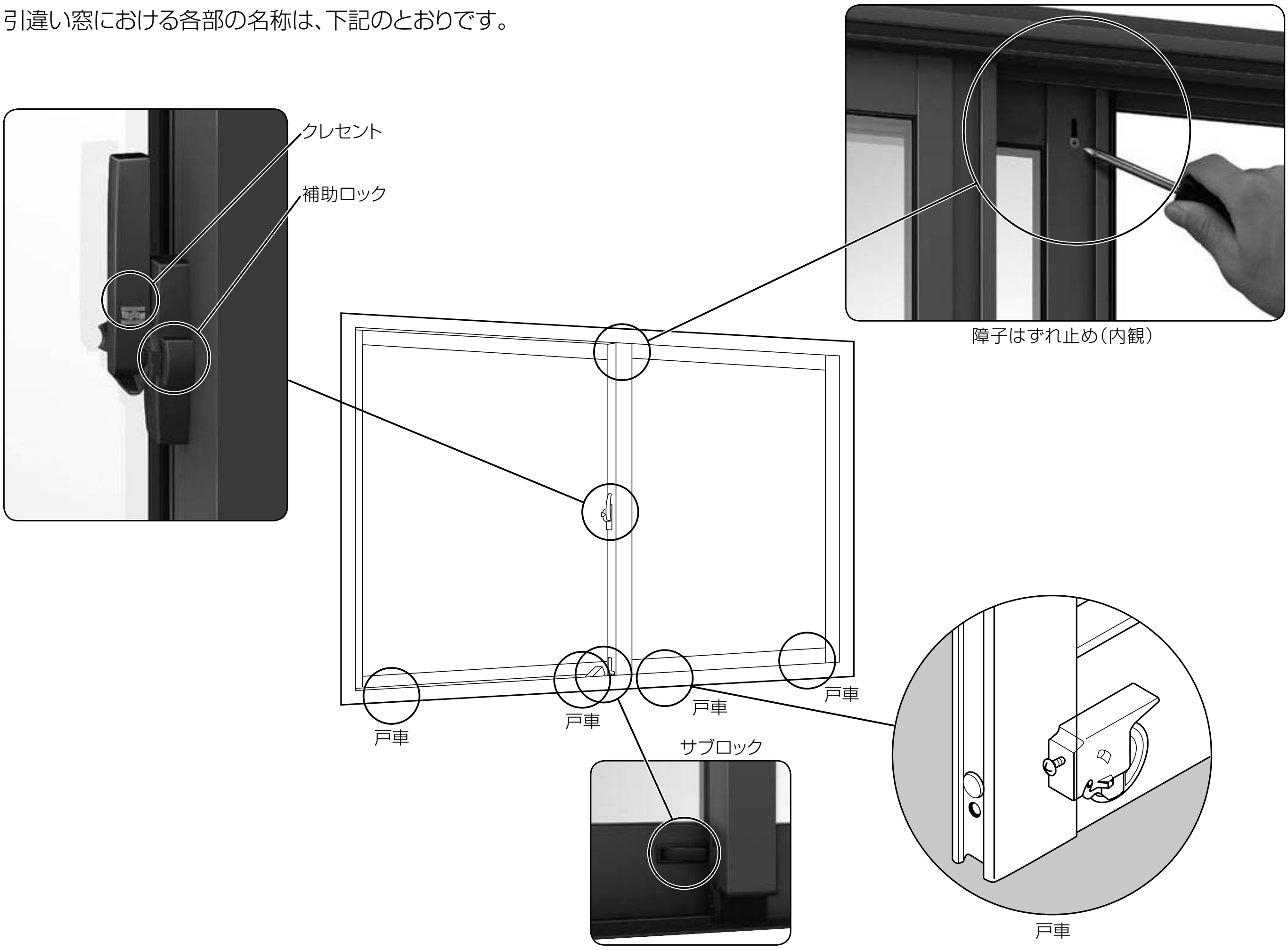
●お手入れなどのために障子をはずした後、再び窓枠に取付けたときは、表示ラベルに従ってはずれ止め部品を必ずかけてください。ご使用中、はずれ止め部品がずれることがあります。時々点検してください。
はずれ止め部品が正しくかかっていないと、障子が窓枠からはずれて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

表示ラベル例



■引違い窓における各部の名称

引違い窓における各部の名称は、下記のとおりです。



窓の開け方・閉め方

窓の開け方

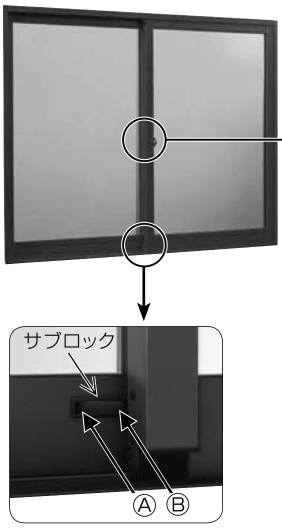
①クレセントの補助ロックを上に持ち上げ、
解錠します。
②クレセントのレバーを下にさげ、
障子を開けます。

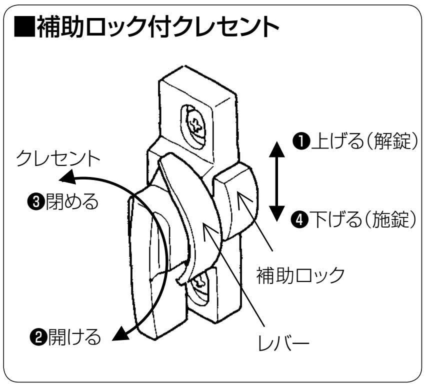
窓の閉め方

③障子をしっかり閉めてからクレセントのレバーを
上にあげます。
④クレセントの補助ロックを下げます。

※サブロック付サッシの場合

サブロックの操作方法は、下記の通りです。
Ⓐを押すとロックされます。
Ⓑを押すとロックが解除できます。





障子の調整

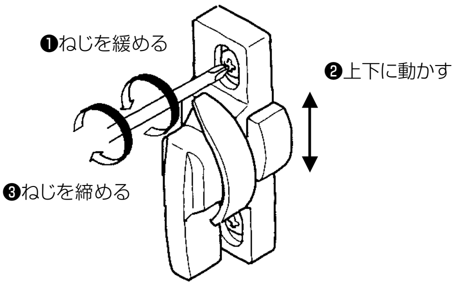
☆障子に不具合が発生した場合は、次の通り調整を行ってください。なお、ご自分での調整が難しい場合は、施工された業者にご相談ください。不具合が発生したまま使用し続けると、部品にキズがついたり、破損するおそれがあります。

クレセント錠の調整

●クレセント錠がかからない、閉めても障子ががたつくようになった場合にクレセント錠本体と受けを調整してください。クレセント錠本体は上下に、クレセント錠受けは左右に調整できますのでかかりやすい位置に合わせ、取付けねじを締めてください。

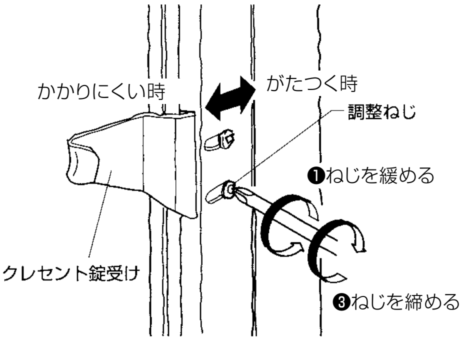
●クレセント錠本体

①2個所の取付けねじを緩めます。
②上下に動かし、クレセント錠受けとの位置を調整します。
③取付けねじを締めます。



●クレセント錠受け

①2個所の調整ねじを緩めます。
②クレセント錠がかかりにくい場合は左方向に、障子ががたつく場合は右方向に位置を調整します。
③調整ねじを締めてください。

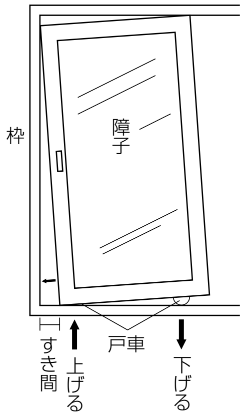


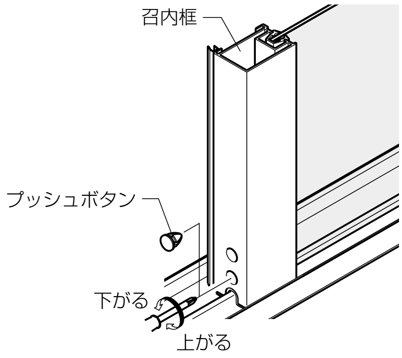
障子の戸車の調整（建付け調整）

●開口部に狂いが生じた時に、戸車の高さ調整をしてください。

①障子の下端にあるプッシュボタン（ないものもあります）をいったんはずし、調整ねじをまわし、高さ調整します。
②調整後はプッシュボタンを戻してください。

障子を上げたい場合…右にまわす（時計まわり）
障子を下げたい場合…左にまわす（反時計まわり）

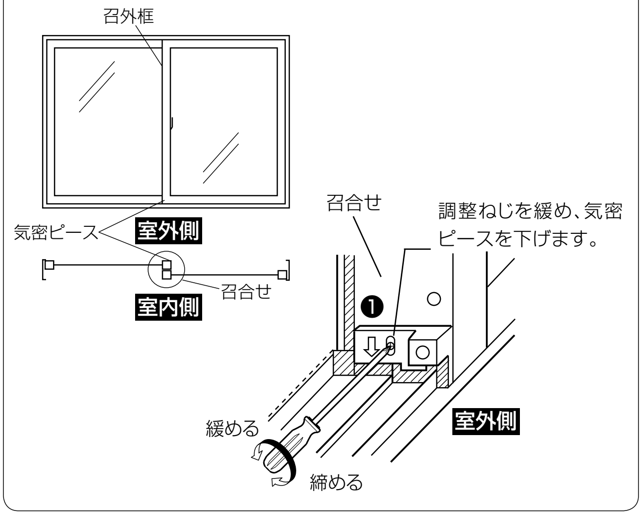




気密ピースの調整

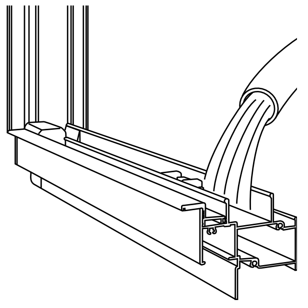
●戸車で建付け調整した後、気密性を保つために召合せ外の気密ピースを下げて、枠とのすき間を発生させないように調整してください。

①調整ねじを緩め、気密ピースを下げます。
②枠とのすき間をなくした後、調整ねじを締めます。



下枠の清掃方法

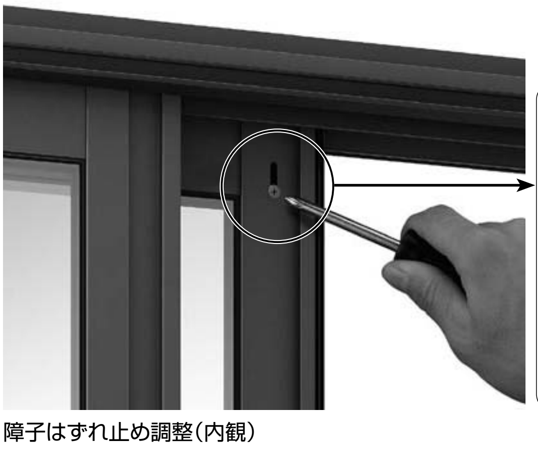
●万が一、下枠に水がたまってしまう状態になりましたらホース等で水をかけてごみを排出してください。
※一部該当しない商品もあります。



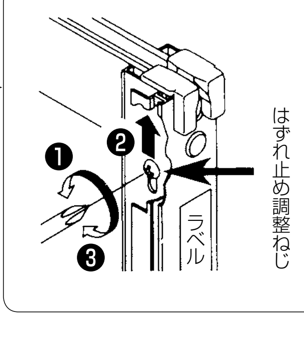
障子のはずれ止めの調整

①障子のはずれ止め調整ねじを左にまわし、緩めます。
②はずれ止め部品にドライバーを入れ、障子の開閉に支障のない範囲で、上にあげてください。
③調整完了後、緩めたねじをしっかり締めてください。

また、商品に表示ラベルを貼付してありますので、お読みください。



障子はずれ止め調整（内観）

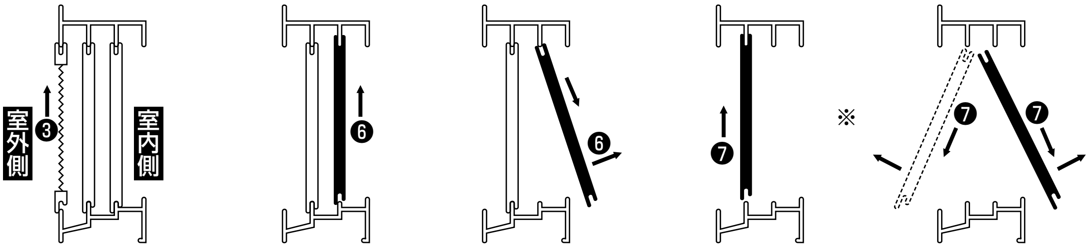


障子のはずし方

やむを得ず、障子をはずすときは、下記を参照してください。

❶室内側からはずす場合

①網戸框上部のはずれ止めの調整ねじを左(反時計まわり)にまわして緩め、はずれ止めを下げます。(P.10参照)
②網戸戸車の操作つまみ(白)をドライバーなどで引き出してください。(P.10参照)　③網戸を持ち上げ、はずします。
④室外側の障子のはずれ止めのねじを左にまわし緩め、はずれ止めを下げます。(P.8のはずれ止めの調整を参照)
⑤気密ピースの調整ねじを緩め、上にあげます。(P.8参照)　⑥室内側の障子を持ち上げ、下部を手前に引き、はずしていきます。
⑦室外側の障子を持ち上げ、下部を手前に引き、はずします。

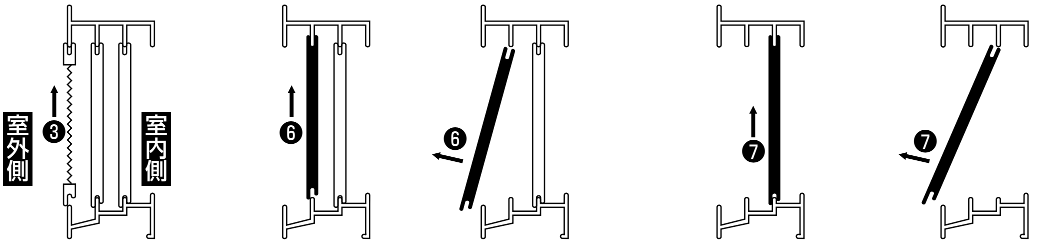


※商品によっては室外側にはずしてから手前に引き、はずします。

障子を入れるときは、逆手順で行ってください。

❷室外側からはずす場合

①網戸框上部のはずれ止めの調整ねじを左(反時計まわり)にまわして緩め、はずれ止めを下げます。(P.10参照)
②網戸戸車の操作つまみ(白)をドライバーなどで引き出してください。(P.10参照)　③網戸を持ち上げ、はずします。
④室外側の障子のはずれ止めのねじを左にまわし緩め、はずれ止めを下げます。(P.8のはずれ止めの調整を参照)
⑤気密ピースの調整ねじを緩め、上にあげます。(P.8参照)　⑥室外側の障子を持ち上げ、下部を手前に引き、はずしていきます。
⑦室内側の障子を持ち上げ、下部を手前に引き、はずしていきます。



障子を入れるときは、逆手順で行ってください。

☆障子は、重いので障子をはずす場合及び入れる場合は2人以上で作業するようにお願い致します。

網戸の調整・はずし方　※商品に表示ラベルを貼付してありますので、ご覧ください。

⚠ 注　意

●お手入れなどのために網戸をはずした後、再び窓枠に取付けたときは、表示ラベルに従ってはずれ止め部品及び脱輪防止部品を必ずかけてください。
ご使用中、はずれ止め部品がずれることがあります。時々点検してください。はずれ止め部品が正しくかかっていないと、網戸が窓枠からはずれて落下し、人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

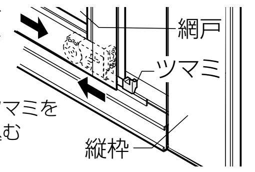
表示ラベル例

⚠ 注　意

網戸建て込み後、脱輪防止のため必ず右記の操作をしてください。
・網戸を縦枠に当て、ツマミを押し込むか又は、指で押し込んでください。
・網戸を外す場合は、ツマミをドライバーなどで引き出してください。

網戸を縦枠に当てツマミを止まるまで押し込む

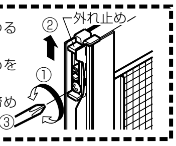
もしくは、指でツマミを止まるまで押し込む



⚠ 注　意

外れ止めを上げていないと網戸が落下するおそれがあります。ねじをゆるめ、両側の外れ止めを、網戸の開閉に支障のない範囲でいっぱいに上げ、締めてください。

①ねじをゆるめる
②外れ止めを上げる
③ねじを締める



TOSTEM 株式会社LIXIL　この面室内側

TS網戸完成品
内付・半外付

商品コード
ロットNo

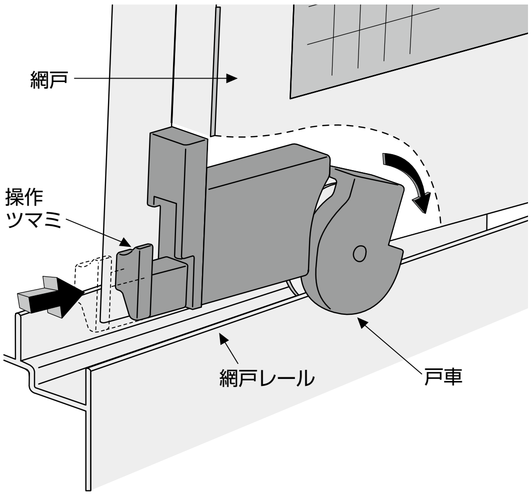
お願い

●網戸に寄りかからないでください。また、押さないでください。網が破れたり、網戸が枠からはずれてけがをするおそれがあります。特に、お子様にはご注意ください。

網戸の調整

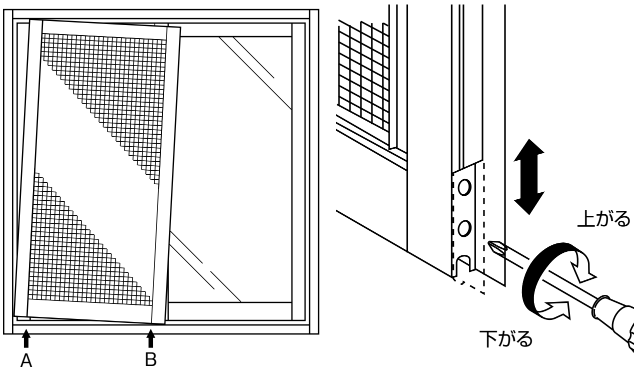
網戸の戸車の調整

●操作ツマミを押し込んでください。ロックが解除され、網戸が浮いても戸車がレールからはずれにくくなります。
※網戸の脱落防止のため、上部のはずれ止め部品は必ずかけてください。



●網戸の取付け後、網戸框とサッシ枠との間にすき間が生じる場合は、障子と同様に戸車を調整してください。

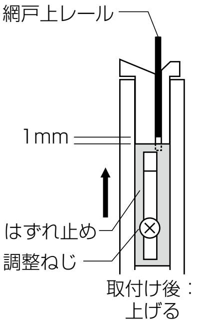
●戸車の調整（建付け調整）
網戸を上げたい場合………右にまわす
網戸を下げたい場合………左にまわす



A部 … 調整ねじを左(反時計回り)へまわす
B部 … 調整ねじを右(時計回り)へまわす

網戸はずれ止めの調整

●戸車の調整後、網戸の脱落防止のため、網戸框上部のはずれ止めを上げて固定してください。

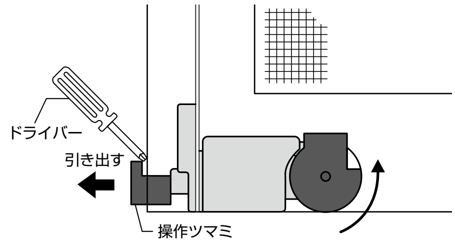


網戸のはずし方

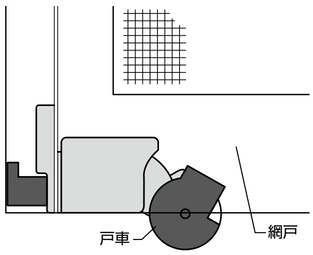
①網戸框上部にあるはずれ止めの調整ねじを左へまわし、緩めます。
②はずれ止めを下げます。
③網戸戸車の操作ツマミ（白）をドライバーなどで引き出してください。
④網戸を持ち上げ、はずします。

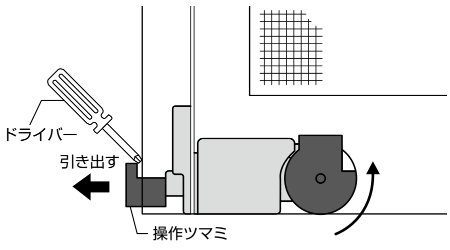
網戸をはめる場合は、逆手順で行ってください。
但し、網戸がはめられない、又は網戸戸車がこわれるおそれがありますので、下記の確認をお願いします。

操作ツマミをドライバーなどで引き出してください。



戸車が網戸から出ていないか確認してください。出ている場合は、操作ツマミをドライバーなどで引き出してください。
戸車が網戸に収納されます。





2. 上げ下げ窓・網戸 ※商品に表示ラベルを貼付してありますので、ご覧ください。

⚠ 注 意

●清掃後の建込みについて

・ガラス外面の清掃手順については、表示ラベルに従って障子をはめ込んだ後、障子がはずれない事を確認してください。操作手順に従い確認をしないと、障子が倒れてくるおそれがあります。

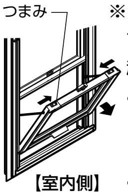
表示ラベル例

⚠注意

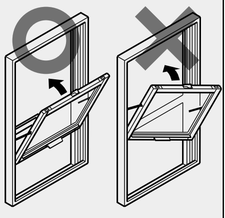
●窓が倒れるおそれがありますので、下記事項をお守りください。
・窓を30°より倒しすぎないでください。
・清掃後に窓を戻したら、窓の上部を手前に引いて外れないことを確認してください。

ガラス外面の清掃法

①窓を5cmほどあけます。
②左右のつまみを内側に引き寄せたまま、手前に30°程倒します。
③窓を手で支えたまま、ガラスの外面を清掃します。



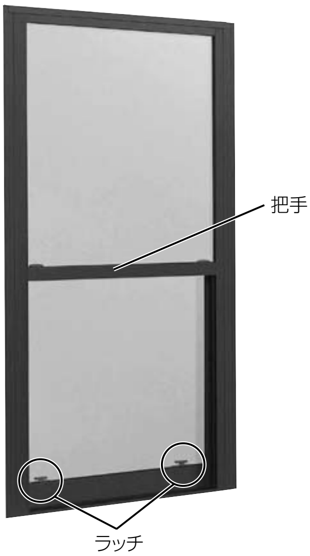
※清掃後、窓を元に戻す時は、水平に窓を起こして「バチン」と枠にはまるまで押し付けてください。（窓をななめにするとはまりません。）



☆障子を閉める時は手を添え、静かに閉めてください。

■上げ下げ窓における各部の名称

上げ下げ窓における各部の名称は、右記のとおりです。



窓の開け方・閉め方

窓の開け方

・ラッチタイプの場合はラッチを押して持ち上げ止まる位置でとめてください。
・把手付きの場合は中央のクレセントを解錠し、把手を持ってあけてください。

窓の閉め方

・ラッチタイプの場合は、ラッチを押して閉めてください。
・把手付きの場合は、把手を持って障子をしめ、クレセントをかけてください。

網戸のはずし方

はずれ止めは、網戸左側の上下にあります。
①左下のつまみは引き上げ、左上のつまみは下げて、はずれ止めを解除します。
②網戸を左側へ押付けます。
③外側に押すとはずれます。

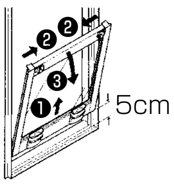
取付けに関しては、逆手順で操作します。
詳しくは、商品に貼付しています表示ラベルに従い、操作してください。

窓の清掃の仕方

●下記手順により、窓を開け、清掃してください。

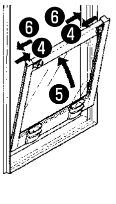
清掃の場合の窓の開け方

①障子を1段上げた状態にします。
②左右のつまみを内側に引き寄せます。
③障子を室内側に静かに倒します。



清掃の場合の窓の閉め方

④つまみを引き寄せます。
⑤障子を立て起こし、外側に押し付ける。
⑥つまみを矢印方向に縁の表示が見えるまで押し込みます。
⑦障子の上部を持ち手前に引き、はずれないことを確認する。

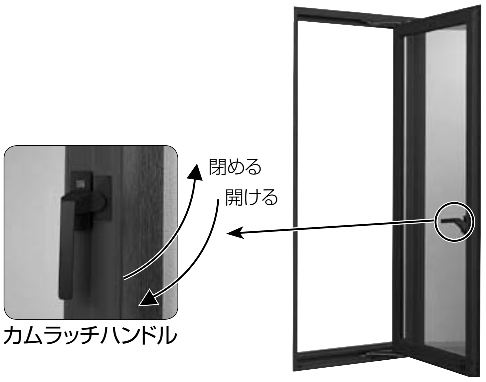


3. たてすべり出し窓•網戸

お願い
●風の強い時は窓を閉めて、必ずカムラッチハンドルをかけてください。
カムラッチハンドルをかけないと障子が急激な開閉で衝撃を受け、破損・落下等のおそれがあり、思わぬけがや事故につながります。

■たてすべり出し窓における各部の名称

たてすべり出し窓における各部の名称は、右記のとおりです。



窓の開け方･閉め方

窓の開け方

・カムラッチハンドルを上にあげ、ハンドルをもって外へ押出すと窓が開きます。

窓の閉め方

・カムラッチハンドルを手前に引き、ハンドルを下にさげます。

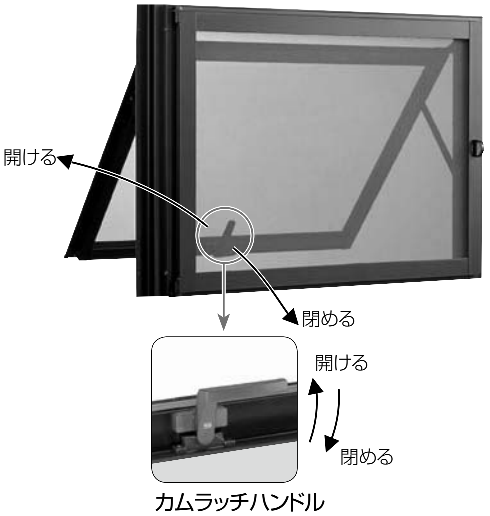
網戸のはずし方

製品に添付されている取扱い説明書をご覧ください。

4. 横すべり出し窓•網戸

■横すべり出し窓における各部の名称

横すべり出し窓における各部の名称は、右記のとおりです。



窓の開け方･閉め方

窓の開け方

・カムラッチハンドルを上にあげ、ハンドルをもって外へ押出すと窓が開きます。

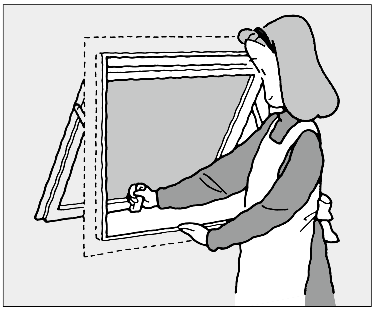
窓の閉め方

・カムラッチハンドルを手前に引き、ハンドルを下にさげます。

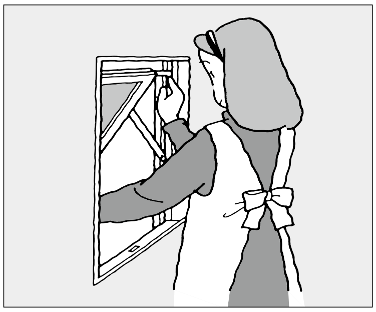
清掃時の窓の開け方

●下記手順により、窓を開け、清掃してください。

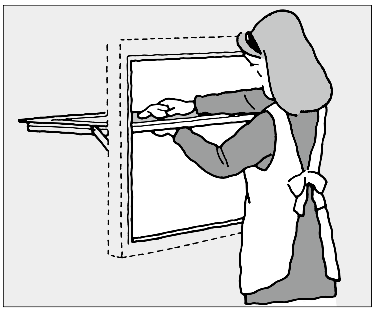
①障子を開く



②左右のストッパーを外し、
障子を水平になるまで開く



③外面を清掃する



※閉める場合は逆手順で行ってください。

網戸のはずし方

製品に添付されている取扱い説明書をご覧ください。

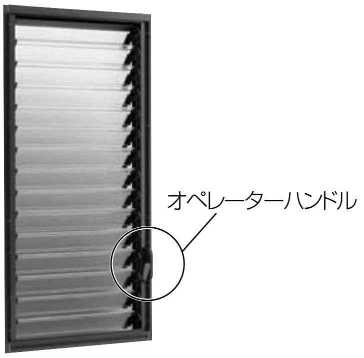
5. ガラスルーバー窓•網戸

お願い
●ガラスルーバーが開いているとガラスをはずしやすいため、外出時や就寝時はガラスを完全に閉めてください。

☆防犯上必要と思われる個所には、高い防犯性と耐久性を備えたステンレス面格子があります。

■ガラスルーバー窓における各部の名称

ガラスルーバー窓における各部の名称は、右記のとおりです。



窓の開け方•閉め方

■オペレーターハンドルタイプの場合

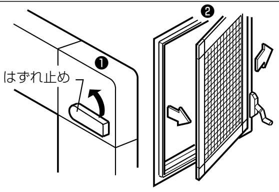
オペレーターハンドルを回転させ、窓を開け閉めします。また、窓を閉める際はオペレーターハンドルを完全に閉めきってください。

■チェーン式オペレータータイプの場合

チェーンを引いて開閉操作をします。

網戸のはずし方

①網戸上下のはずれ止めのつまみを回転し、たて向きにします。
②網戸をオペレーターハンドル側に押しつけ、手前に引くとはずれます。
取付けに関しては、逆手順で操作します。
詳しくは、商品に貼付しています表示ラベルに従い、操作してください。



6. オーニング窓•網戸

（たてすべり出し窓オペレータータイプ、高所用たてすべり出し窓、押出し窓、よこすべり出し窓オペレータータイプも同様です）

■オーニング窓における各部の名称

オーニング窓における各部の名称は、右記のとおりです。

窓の開け方•閉め方

■オペレーターハンドルタイプの場合

オペレーターハンドルを回転させ、窓を開け閉めします。
また、窓を閉める際は、オペレーターハンドルが動かなくなるまで閉めきってください。

■チェーン式オペレータータイプの場合

チェーンを引いて開閉操作をします。

網戸のはずし方

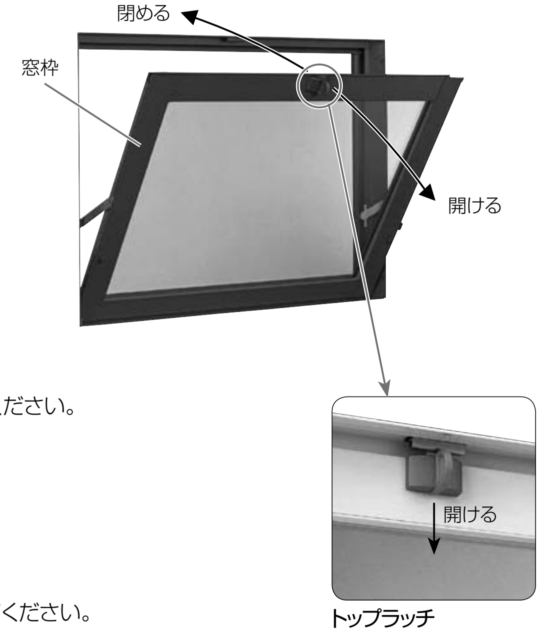
●上記の「ガラスルーバー窓」をご参照ください。

7. 内倒し窓•網戸

お願い
●障子を開く時は、障子が止まるまで必ず手を添えてください。

■内倒し窓における各部の名称

内倒し窓における各部の名称は、右記のとおりです。



窓の開け方・閉め方

窓の開け方

障子上部のトップラッチを下にひくと、開きます。
尚、角度は2段階で調整できますので、角度を変えたい場合は、下記をご参照ください。

窓の閉め方

障子上部を押しながらトップラッチが完全にかかるまで押します。

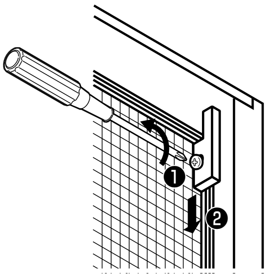
障子の開き角度の調整

●障子の開き角度を初期の状態から調整したい場合には、下記により調整してください。

調整の方法については、各商品に貼付されているラベルをご参照ください。

網戸のはずし方

①網戸上部にある調整ねじを緩めます。
②はずれ止めを下げ、網戸を持ち上げ、外側からはずします。
取付けに関しては、逆手順で操作します。
詳しくは、商品に貼付しています表示ラベルに従い、操作してください。

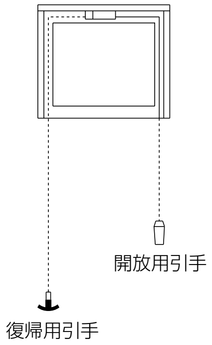


8. 外倒し窓（排煙仕様）

■外倒し窓における各部の名称

外倒し窓における各部の名称は、右記のとおりです。

（室外側）

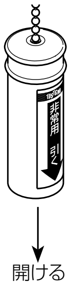


（室内側）

窓の開け方・閉め方

窓の開け方

開放用引手を下に引くと障子が室外側に倒れ窓が開きます。



窓の閉め方

復帰用引手を引くとラッチがかかり、窓は閉まります。

9. 片引き窓・網戸　※商品に表示ラベルを貼付してありますので、ご覧ください。

⚠ 注　意

●お手入れなどのために障子をはずした後、再び窓枠に取付けた時は、表示ラベルに従ってはずれ止め部品を必ずかけてください。また、ご使用中はずれ止め部品がずれることがあります。時々点検してください。はずれ止め部品が正しくかかっていないと、障子が窓枠からはずれて落下し人身事故や物損事故につながるおそれがあります。

■片引き窓における各部の名称

片引き窓における各部の名称は、P.6の「引違い窓」をご参照ください。

窓の開け方・閉め方

窓の開け方

・P.7の「引違い窓」をご参照ください。

窓の閉め方

・P.7の「引違い窓」をご参照ください。

障子の調整

障子のはずれ止めの調整

障子のはずれ止めの調整は、P.8の「引違い窓」をご参照ください。

網戸のはずし方

P.10の「引違い窓」をご参照ください。
詳しくは、商品に貼付しています表示ラベルに従い、操作してください。

10. 出窓・網戸　※商品に表示ラベルを貼付してありますので、ご覧ください。

⚠ 注　意

●テーブル板の上に60kg以上のものをのせないでください。
出窓が前倒れし、引違い障子が脱落したり、開き障子が開閉できなくなるおそれがあります。

お願い

●テーブル板にはのらないでください。出窓の破損やけがにつながるおそれがあります。
●出窓の屋根にのったり、はしごをかけたりしないでください。無理な重さをかけると、変形したり、転落によりけがをするおそれがあります。
●テーブル板は木質系のため、水がこぼれたら直ちにふき取ってください。（居室・和室用出窓テーブル板）
●テーブル板に衝撃を与えないでください。割れ・欠けなどの原因になります。（浴室用出窓人工大理石テーブル板）
●テーブル板に直接エアコンの風が当たらないように注意してください。

■出窓における各部の名称

出窓における各部の名称は、右記のとおりです。

窓の開け方・閉め方

窓の開け方、閉め方は、引違い窓、たてすべり出し窓をご参照ください。
※引違い窓の障子の調整についてはP.7をご参照ください。

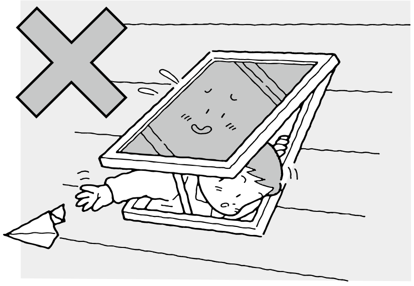
網戸のはずし方

引違い窓用の「網戸の調整・はずし方」はP.10をご参照ください。

11. 天窓 ※電動タイプは、取扱い説明書が添付されています。

お願い

●開閉する部分に物を置いたり、窓から顔や手を絶対出さないでください。
●お出かけになる時は、必ず障子を閉めてください。
●凍結した場合の取扱いについて
・凍結した場合は、溶けるまで待ってから作動してください。
・ガラス面や壁スイッチなどに、ストーブなどの熱気を直接あてないでください。
●厚手のカーテン・ブラインド・シェードを取付ける場合は、ガラスの熱割れ防止のため、ガラスから離してください。
●電動商品の場合、フック棒を非常用リングにかけたまま電動で開閉しないでください。
リングが回り、フック棒が振り回され、当たってけがをするおそれがあります。
●TN型については、降雨時・換気ポジションでのご使用はやめてください。
漏水につながるおそれがあります。



■TT型（チルト開閉タイプ）

●本体取付ハンドル

■TN型（中軸回転開閉タイプ）

●バーハンドル

窓の開け方・閉め方

電動商品については、個別の取扱い説明書をご覧ください。

■TT型（チルト開閉タイプ）

窓の開け方

●フック棒の場合
・リングにフック棒を引っ掛け、左に回すと窓が開きます。
●ハンドルの場合
・ハンドルを左に回すと窓が開きます。

窓の閉め方

●フック棒の場合
・リングにフック棒を引っ掛け、右に回すと窓が閉まります。
●ハンドルの場合
・ハンドルを右に回すと窓が閉まります。

■TN型（中軸回転開閉タイプ）

窓の開け方

・バーハンドルを手前にひくと窓が開きます。
・バーハンドルを手前に少しひくと「換気ポジション」になり、わずかに窓が開いた状態で固定され、換気がおこなえます。（雨天時は閉めてください）

窓の閉め方

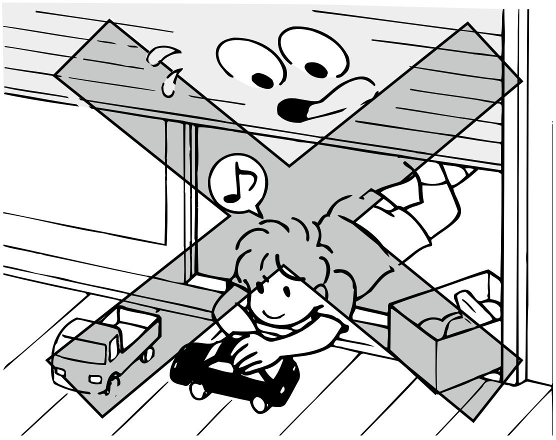
・バーハンドルを少し強く押上げてください。

12. 窓シャッター

※ご使用の際は商品に貼ってあるラベルもよくお読みの上、正しくお使いください。
※電動タイプは専用の取扱い説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

⚠ 注　意

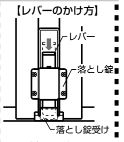
●開閉の際は周囲に人・物がないことを確かめてから開閉してください。はさまれてケガをしたり、物をはさんだりするおそれがあります。
●開閉中は開閉位置に顔や手を出さないでください。はさまれてケガをするおそれがあります。
●連窓方立の取付け後に、落し錠のレバー部『閉』刻印が半分以上かくれるまでレバーを下げ、落し錠受けに固定されていることを確認してください。固定されていない場合、脱落して人身事故や物損事故につながります。



連窓方立の操作について

⚠ 注 意

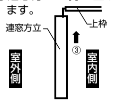
【レバーのかけ方】



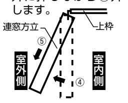
●取付けの際は、レバーを 閉 の位置まで下げてください。連窓方立が外れ、事故になるおそれがあります。

連窓方立の外し方

※この連窓方立は下記手順にて外せます。
①シャッターを全開にします。
②レバーを上げます。（上図参照）
③連窓方立を持ち上げます。



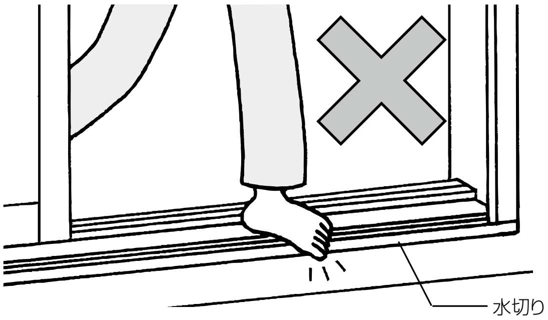
④連窓方立の下部を室外に押しながら⑤外します。

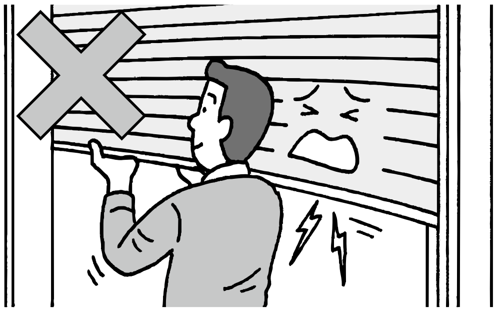


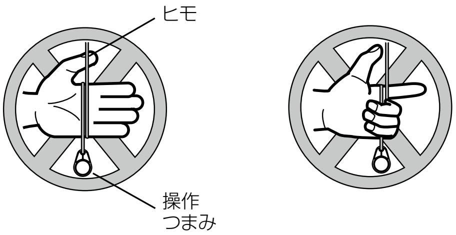
※取付けは、逆の要領で行ってください。

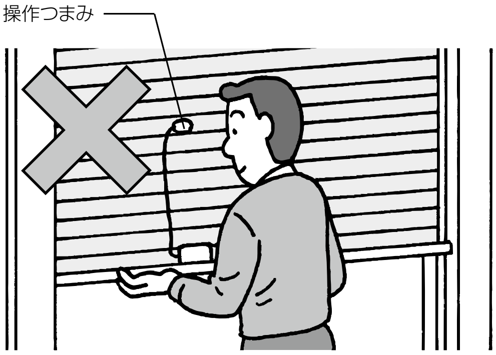
お願い

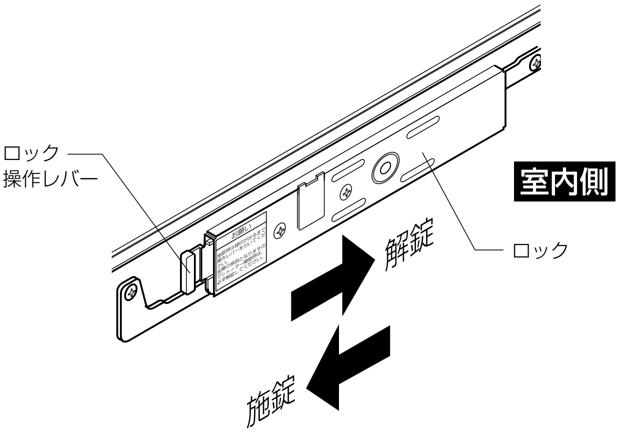
- ●おやすみ、外出、強風･雨の際は、シャッターを閉めるだけでなく必ず内側のサッシも施錠してください。
- ●シャッターボックスに、はしごをかけたり、上に乗ったりしないでください。変形および故障、転落や負傷につながります。
- ●シャッターボックスに雪が30cm以上積もった場合は、必ず、取り除いてください。変形および故障につながります。また、その際は足場をしっかり確保して作業してください。転落･負傷するおそれがあります。
- ●シャッターが凍結したときは、必ず溶けてから操作してください。無理な作動は故障や破損の原因になります。
- ●水切り先端部に乗ったり、重量物を載せたりしないでください。無理な重さをかけると破損の原因になります。
- ●ゆっくり開閉してください。無理な開閉を行うと故障や破損の原因になります。
- ●幅木の端の方を持って開閉をつづけないでください。スラットが斜めに巻き上がったり、こすれ音が出る等、故障や破損の原因になります。解錠レバーは、幅木の両端から1／6では操作できません。
- ●操作つまみは、開口の1／6の距離よりもガイドレール寄りに移動させないでください。作動不良の原因になります。
- ●操作つまみを持って開閉をする際に、ヒモに指や手をからめて操作しないでください。思わぬケガをするおそれがあります。
- ●操作つまみをスラットに張り付けたまま、シャッターを開けないでください。スラットが斜めに巻き上がったり、スラットにヘコミが発生したりするおそれがあります。
- ●シャッターの開閉時は必ず解錠してください。無理な開閉を行うと故障や破損の原因になります。
- ●換気スラットの通気孔は閉めることができません。強風や雨の際は、必ず内側のサッシを閉めてください。風や雨水が室内に入ります。また、換気孔から外の光が入りますので、遮光カーテン等をご使用ください。
- ●連窓方立の上部が連窓ブラケットに差し込まれていることを確認してください。差し込まれていない場合、脱落して人身事故や物損事故につながります。

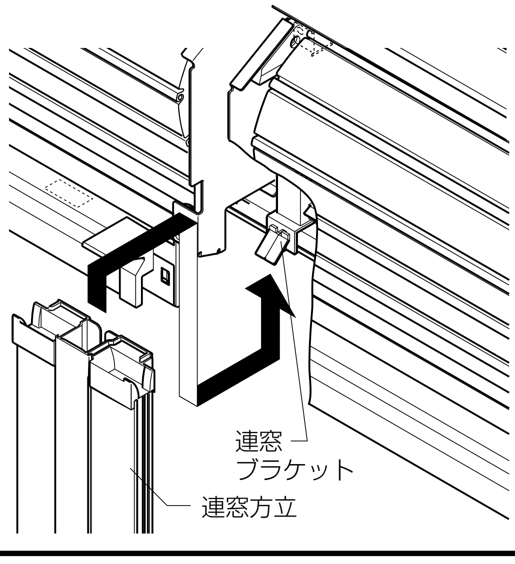








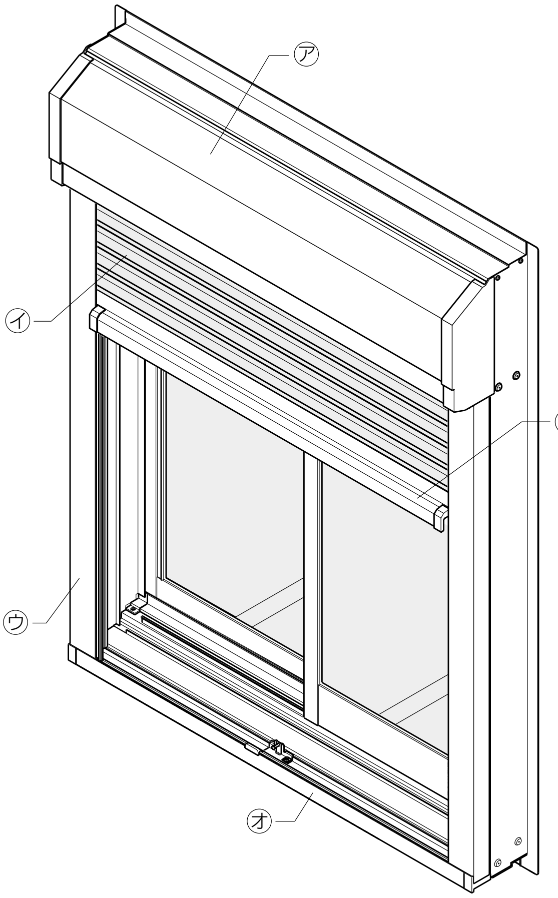




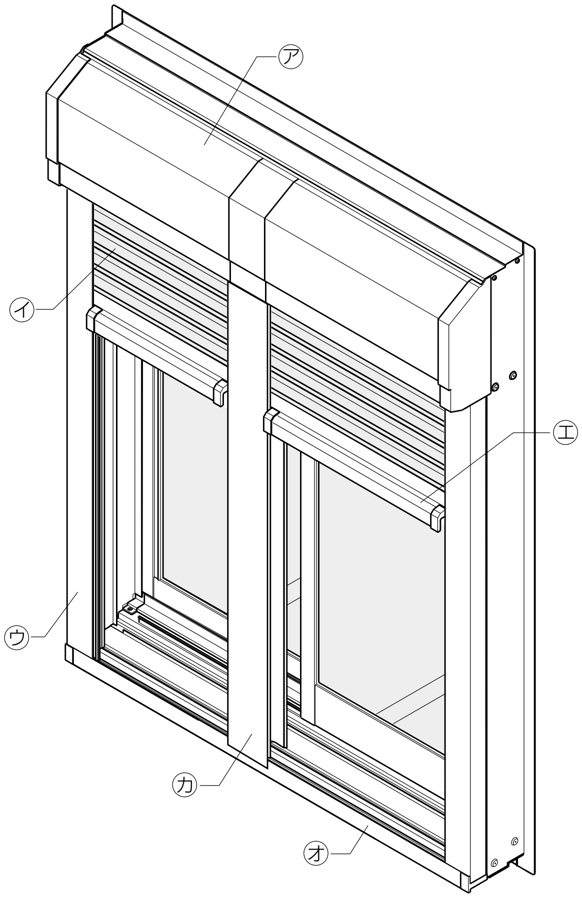
各部のなまえとはたらき

●「窓シャッター」の各部のなまえとはたらきを説明します。

〔単窓の場合〕



〔連窓の場合〕



●本体各部のなまえとはたらき

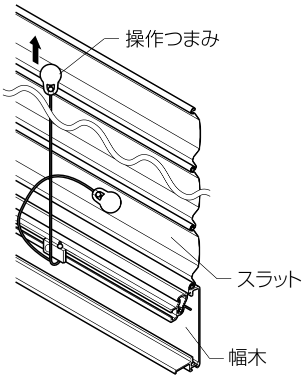
記　号	なまえ	はたらき
ア	シャッターボックス（点検口）	スラットなどを収納する部分です。 スラットなどの点検口です。
イ	スラット	カーテン部分です。
ウ	ガイドレール	両側にあり、スラットの動きを誘導します。
エ	幅　木	スラットの最下部で、ロックが組込まれています。
オ	水切り	底の部分で、雨水などを流します。
カ	連窓方立	連窓中央部にあり、スラットの動きを誘導します。

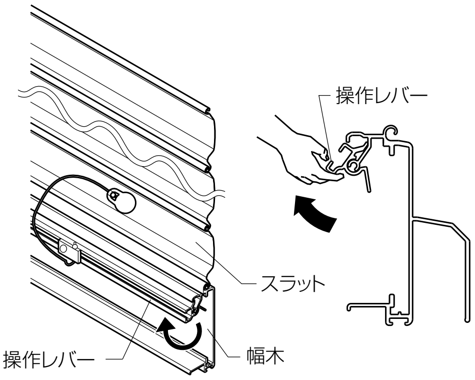
窓シャッターの開け方･閉め方

幅木の室内側に操作つまみがついている場合
※品種により操作レバーがないものもあります。

「窓シャッター」の開け方

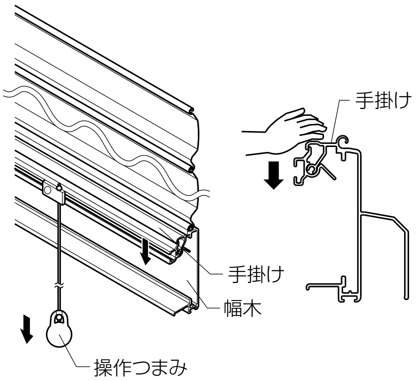
①幅木の室内側についている、操作つまみを引き上げるか、操作レバーを室内側に回転させて解錠し、ゆっくりと開けてください。
②開けた後は、操作つまみを垂らしておくか、一番下のスラットに張り付けてください。

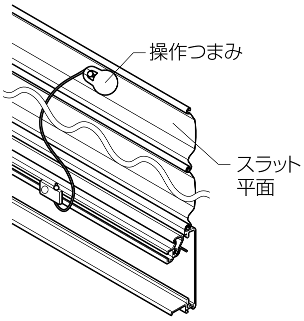




「窓シャッター」の閉め方

①操作つまみを引き下げて幅木の手掛けを持ち、ゆっくりと閉めてください。
※施錠されていることを確認してください。
②閉めた後は、操作つまみをスラット平面に横向きに張り付けておいてください。





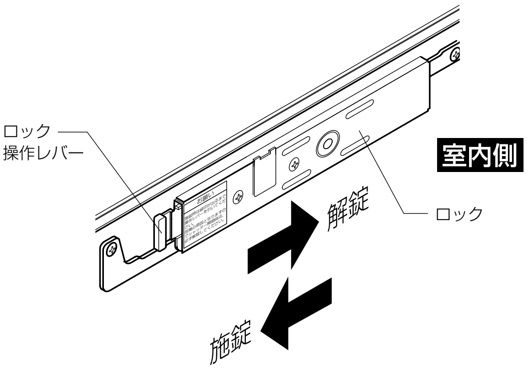
スラット中間部にロックがついている場合

「窓シャッター」の開け方

・中間部の室内側についている、ロック操作レバーを横に引いて解錠し、ゆっくりと開けてください。

「窓シャッター」の閉め方

①幅木を手で持ち、ゆっくりと閉めてください。
②閉めた後は、ロック操作レバーを横に引いて施錠してください。
※施錠時は緑印が出るまでロック操作レバーを引いてください。



注　意

●開閉の際は周囲に人・物がないことを確かめてから開閉してください。はさまれてケガをしたり、物をはさんだりするおそれがあります。
●開閉中は開閉位置に顔や手を出さないでください。はさまれてケガをするおそれがあります。

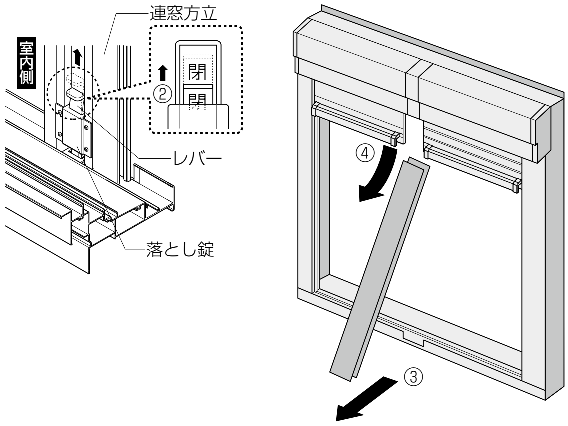
お願い

●おやすみ、外出、強風･雨の際は、シャッターを閉めるだけでなく必ず内側のサッシも施錠してください。
●ゆっくり開閉してください。無理な開閉を行うと故障や破損の原因になります。
●幅木の端の方を持って開閉をつづけないでください。スラットが斜めに巻き上がったり、こすれ音が出る等、故障や破損の原因になります。解錠レバーは、幅木の両端から1／6では操作できません。
●操作つまみは、開口の1／6の距離よりもガイドレール寄りに移動させないでください。作動不良の原因になります。
●操作つまみを持って開閉をする際に、ヒモに指や手をからめて操作しないでください。思わぬケガをするおそれがあります。
●操作つまみをスラットに張り付けたまま、シャッターを開けないでください。スラットが斜めに巻き上がったり、スラットにヘコミが発生したりするおそれがあります。
●シャッターの開閉時は必ず解錠してください。無理な開閉を行うと故障や破損の原因になります。

連窓方立の取外し方･取付け方

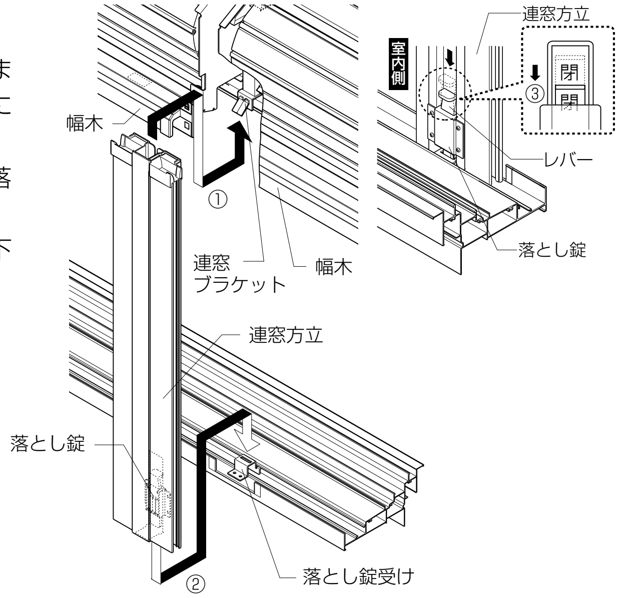
「連窓方立」の取外し方

①「窓シャッター」を開けた状態にします。
②連窓方立の室内側下部についている落し錠のレバーを引き上げます。
③連窓方立の下部を室外側に押し出します。
④連窓方立を下方向に下げて、上部から引き抜きます。



「連窓方立」の取付け方

①幅木を引き下げて、連窓方立の上部に左右の幅木を差し込みます。そのまま連窓方立を押し上げ、その上部を連窓ブラケットに差し込みます。
②連窓方立の下部を室内側に引き込み、落し錠のレバーを下げ、落し錠受けに固定します。
※落し錠のレバー部『閉』刻印が半分以上かくれるまでレバーを下げ、落し錠受けに固定します。



⚠ 注　意

●連窓方立の取付け後に、落し錠のレバー部『閉』刻印が半分以上かくれるまでレバーを下げ、落し錠受けに固定されていることを確認してください。固定されていない場合、脱落して人身事故や物損事故につながります。

お願い

●連窓方立の上部が連窓ブラケットに差し込まれていることを確認してください。差し込まれていない場合、脱落して人身事故や物損事故につながります。

点検

●「窓シャッター」は少なくても1ヶ月に2〜3回開閉をしてください。長期間動かさないとスムーズに作動しなくなるおそれがあります。
●「窓シャッター」を安全にご使用いただくため、下記の点検をおこなってください。点検を行い作動不良や異常がありましたら、お買い求めの工務店・販売店または当社営業所へご連絡ください。

●点検箇所

点検部分	点検内容
ガイドレール部 スラット部	作動がスムーズに行えないようなキズ・曲がりなどの変形、異常音はないか。

お手入れのしかた

●「窓シャッター」下部の水切り部やガイドレール内部は常に清掃し、異物などがないようにしてください。開閉が重くなったり、破損するおそれがあります。

●「窓シャッター」の開閉力は、年月と共に重くなってきます。これは各部への砂·チリ汚れなどの付着や摩耗によるものです。お手入れの仕方に基づいてお手入れをしてください。

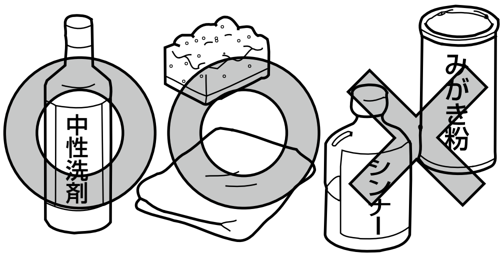
●「窓シャッター」はアルミニウム及び鋼板で作られています。スラット表面についたゴミやホコリ、砂や雨水などは腐食・作動不良などの原因になりますので定期的に掃除してください。

●長期間、清掃しないままにしておきますと、表面やガイドレール内部に付着した汚れは、しみ、腐食、作動不良等の原因になります。汚れが軽いうちに清掃してください。
清掃の目安は、少なくとも月に一回程度です。
特に海岸地帯や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスによる汚損が進みやすいので、こまめにお手入れしてください。

お願い

●お手入れには柔らかい布·スポンジを使用し、金属製ブラシ・金ベラなどを使用しないでください。

●洗剤は、必ず中性のものを使用してください。



①スラット表面に付いたゴミやホコリ、砂や雨水などを取り除いてください。

②ガイドレール内部や水切り部についたゴミやホコリ、砂や雨水などをふき取ってください。隅の方は、歯ブラシ·洋服ブラシなどで掃除してください。

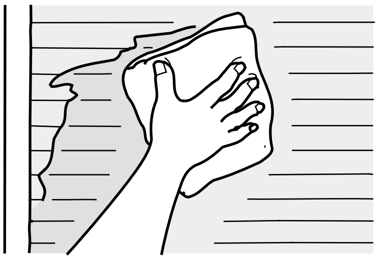
③以下の要領で汚れを落としてください。

〔あまり汚れがひどくない部分〕

・ぞうきんで水ぶきした後、からぶきしてください。

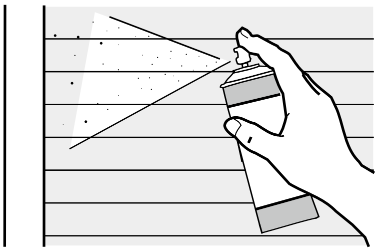
〔特に汚れがひどい部分〕

・うすめた中性洗剤で汚れを落とし、洗剤が残らないようぞうきんでよく水ぶきした後、からぶきしてください。



④鋼板部にサビがでた場合

●まず、目の細かい紙ヤスリなどでサビを完全に落とします。そして市販のスプレー式ラッカーを吹き付けてください。その時、スラットのかみ合っている部分など可動部にかからないよう注意してください。



「窓シャッター」が動かない場合

●シャッターが動かない場合は、表に従って処置をしてください。

ここをお調べください	処置のしかた
ロックが施錠になっていませんか？	ロックを解錠してください。
ガイドレールに障害物がありませんか？	障害物を取り除いてください。
ガイドレール･スラットなどが変形していませんか？	変形している場合はただちに「窓シャッター」の使用を中止し、お買い求めの工務店・販売店又は当社営業所へご連絡ください。
シャッターが凍結していませんか？	凍結している場合は、溶けるまで待ってから作動させてください。無理に作動させると故障の原因となります。

13. 雨戸

雨戸の開け方･閉め方

雨戸の開け方

・雨戸をレールに沿って押しながら戸袋に収納します。

雨戸の閉め方

・戸袋から雨戸を引き出し、レールに沿って動かします。

お願い

●雨戸上錠（長い方）は、つまみが磁石になっています。操作時に、手前に強く引くと曲がり、使用できなくなります。
●雨戸錠は、防犯の為、必ず上下お掛けください。

14. 窓手すり

お願い

●窓手すりに無理な力をかけないでください。十分に強度を配慮して設計･製作されていますが、人がのったり、身をのり出すなど無理な力が加わると、落下･転落のおそれがあります。
●窓手すりにロープやはしごをかけるなどして、荷物を上げ下げしないでください。無理な重さをかけると落下･転落につながるおそれがあります。

■保守点検について

※ご使用中にいろいろな不具合が発生することがあります。
下記のような不具合がないかどうか、お手入れの時に点検してください。
不具合がありましたら、施工された業者にご相談ください。

・手すり子が折れ曲がり、すき間が広がっている。
・手すり子を止めているねじが緩んでいる。
・手すり子がはずれている。
・手すりユニットを手でゆするとグラグラする。
・手すりユニットの各部及び部品が腐食している。

15. フラワーボックス（花台）

⚠ 注　意

●フラワーボックス（花台）には絶対乗らないでください。又、エアコンの室外機などの重量物を置かないでください。無理な重さをかけると、落下・転落につながるおそれがあります。

お願い

●フラワーボックスにロープやはしごをかけるなどして、荷物を上げ下げしないでください。無理な重さをかけると、落下・転落につながるおそれがあります。

■保守点検について

※ご使用中にいろいろな不具合が発生することがあります。
下記のような不具合がないかどうか、お手入れの時に点検してください。
不具合がありましたら、施工された業者にご相談ください。

・格子が折れ曲がり、すき間が広がっている。
・格子を止めているねじが緩んでいる。
・格子がはずれている。
・フラワーボックスユニットを手でゆするとグラグラする。
・フラワーボックスユニットの各部及び部品が腐食している。

16. オープンウィンフォールディング

※ご使用の注意とお願い及び各部の調整方法は、引違い窓・網戸を参照してください。

操作方法

1 室内側から開ける場合

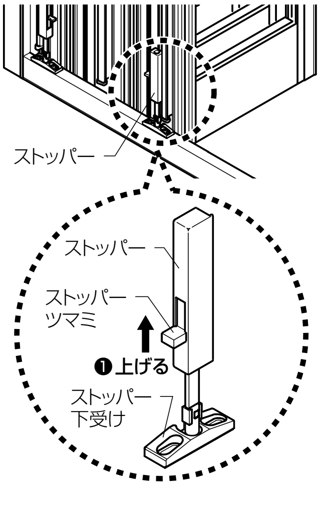
①室内側からの障子を開ける場合には、中央部のストッパーのツマミを上げてハンドルを反時計回りにまわし、解錠させます。
ハンドルを20cmほど外へ押出してから引手部を持ってスライドさせ、全開にしてください。
②全開にしたらストッパーのツマミを下げて固定してください。

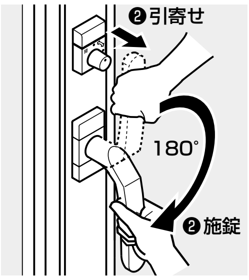
2 室内側から閉める場合

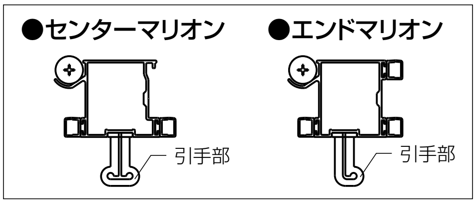
①ストッパーのツマミを、上げてから引手部を持って障子を閉めます。
②障子を室内側へ引寄せた状態で、ハンドルを時計回りに180°回転させ施錠します。
③補助ロックのツマミを押しながら押しながら閉側へ90°回転させるとハンドルはロック状態になります。
④全てのハンドルを施錠してください。
⑤中央部のストッパーのツマミを下げて固定してください。

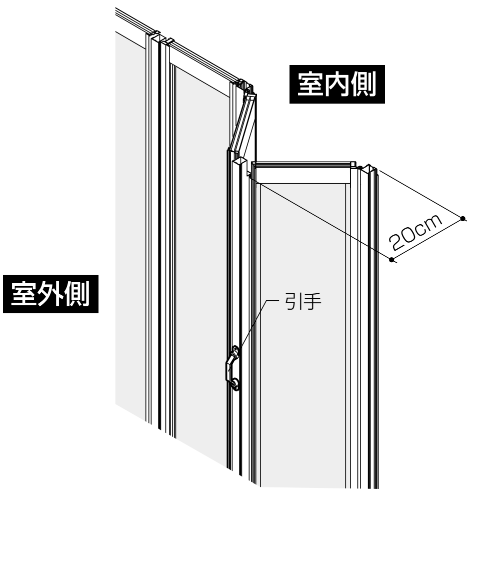
3 室外側から開ける場合

①引手（別売部品）を引いて障子を開けてください。
ハンドルを20cmほど外に押出してから引手部を持ってスライドさせ、全開にしてください。









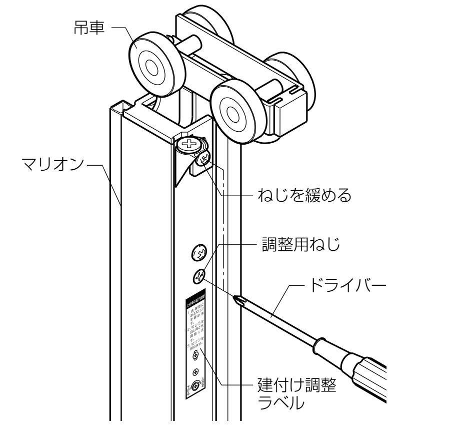
4 障子・高さ調整方法（建付け調整用ラベルを参照してください。）

①はじめにマリオンを固定している長穴部分のねじ（両側2個所）を緩めます。
②調整用ねじを回して高さ調整を行ってください。調整用ねじが回らない場合はねじ①とねじ②の間のねじ（両側に2個所）も緩めます。
・上に上げる場合は、調整用ねじを右側（時計回り）に回します。
・下に下げる場合は、調整用ねじを左側（反時計回り）に回します。
③調整が終わりましたら、緩めたねじを締めて、固定してください。

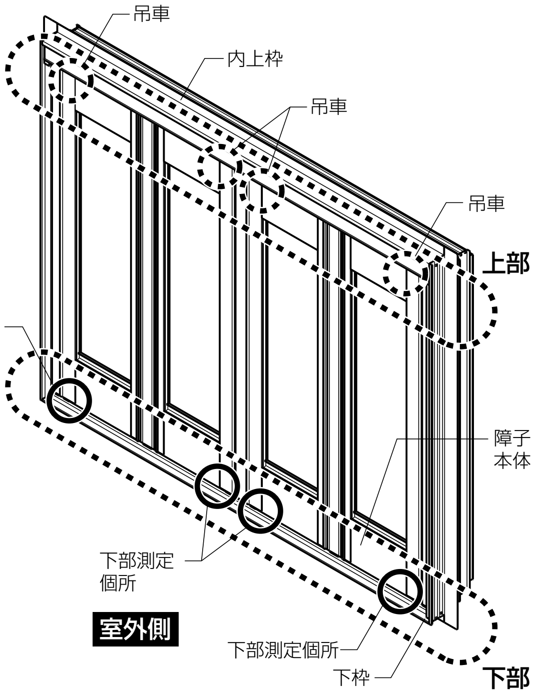
お願い

●下部のすき間が5mm以下の場合、障子の高さを上げ、下部のすき間を確保してください。障子と下枠がこすれ、異音が発生する原因になります。ご自身で調整が難しいときは、施工された業者にご相談ください。そのままで使用し続けると、キズ、破損等が発生するおそれがあります。

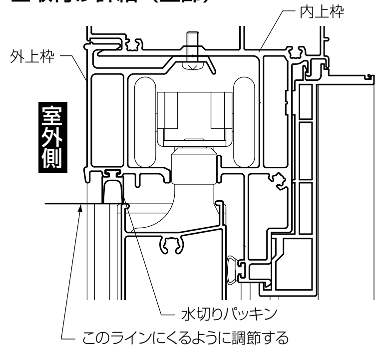
■高さ調節方法（詳細は取付け説明書参照）



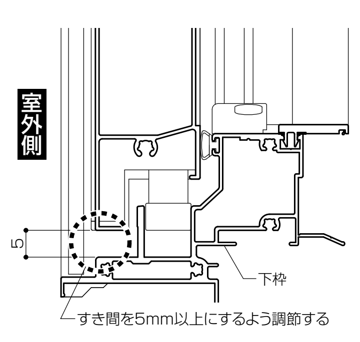
【建付け調整用ラベル】



■取付け詳細（上部）



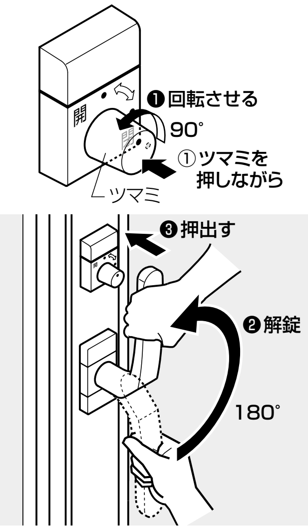
■取付け詳細（下部）



5 ハンドル操作方法

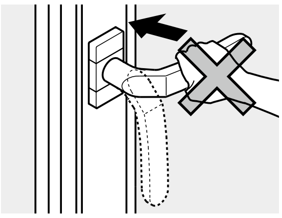
■解錠の仕方

①補助ロックのツマミを押しながら開側へ90°回転させます。
②ハンドルを反時計回りに180°回転し、解錠させます。
③ハンドルを20cmほど外へ押出してからマリオン引手部を持ってスライドさせ、全開にしてください。



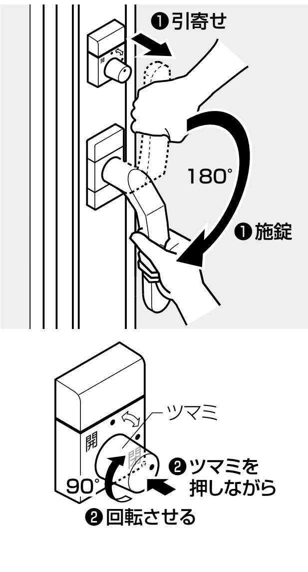
注　意

●ハンドルを180度回転させないで押出すと、ガラス損傷、気密材が切れて、漏水のおそれがあります。



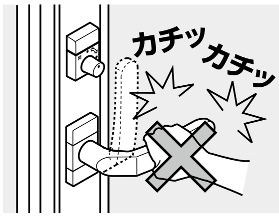
■施錠の仕方

①障子を室内側へ引寄せた状態で、ハンドルを時計回りに180°回転させ施錠します。
②補助ロックのツマミを押しながら閉側へ90°回転させるとハンドルはロック状態になります。



お願い

●障子を室内側へ引寄せていない状況で、無理に操作しないでください。施錠機構が変形し、開閉が重くなる場合があります。



17. 玄関ドア

お願い

●ドアの開閉時には、丁番側のすき間に絶対に手を置かないでください。指をはさんで大けがをするおそれがあります。特にお子様にはご注意ください。
●ドアの開閉にあたっては、必ず把手を持って操作してください。把手から手を離したり、ドアの先端に手を置くと、突風などでドアが急に閉まったとき、ドアと枠の間で指をはさみ、思わぬけがをするおそれがあります。特にお子様にはご注意ください。
●小さなお子様が出入りする時は、親が付き添って開閉するようにしてください。風の強いときはドアを閉めて、必ず錠をかけてください。風によりドアが急に開閉することがあり、ドアの破損やけがにつながるおそれがあります。
●錠がかかりにくい等の異常が発生した場合は、施工業者にご相談ください。そのままで使用し続けると、錠が破損するおそれがあります。

ドア部品名称

1.ドアガード、ガードロック
・訪問者確認用であり、錠ではありません。

2.セキュリティサムターン
・万一ガラスを割られて外から手を入れられてもつまみがないため鍵が開けられないシステムです。
（シリンダー錠または下シリンダー鍵の室内側）
※商品によっては、つかない場合もあります。

3.ドアクローザ
・ドアをゆっくり閉じる働きをします。

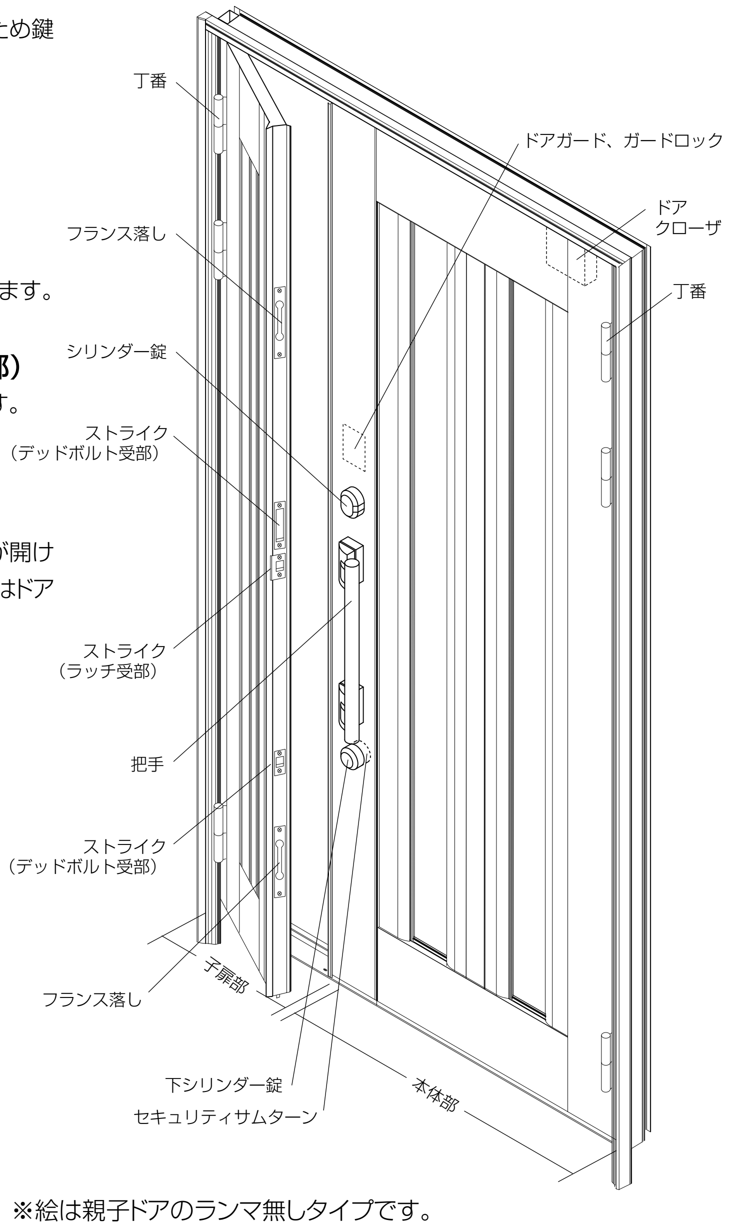
4.把手（ハンドル）
・把手にはいろいろなタイプがあり、それぞれ操作方法が異なります。P.31を参照してください。

5.ストライク（ラッチ受部）、ストライク（デッドボルト受部）
・ドアを閉める際や、施錠した際に出る金属の棒を受ける金具です。

6.フランス落し
・子扉を固定する金具です。

7.シリンダー錠・下シリンダー錠（ツーロック）
・ひとつのキーで、外からシリンダー錠、下シリンダー錠の両方が開け閉めできます。外出、就寝時は施錠してください。風の強いときはドアを閉めて、必ず錠をかけてください。

8.丁番
・ドア本体や子扉を枠に吊込む金具です。



※絵は親子ドアのランマ無しタイプです。

ドア部品の操作・調整方法

1ドアガード、ガードロックの操作　※商品によって装備されているものが異なります。

☆ガードロックやドアガードは在宅時の「訪問者確認用」であり、錠ではありません。
就寝時等には防犯の為必ず施錠していただくようお願いします。

お願い

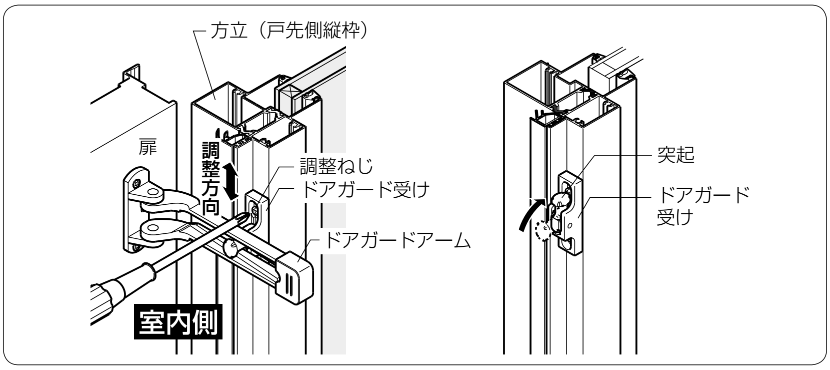
- ドアガード操作時は、ドアガードアームの溝部に指を入れないでください。
- ドアガード操作時は、ドアガードアームに体を近づけないでください。体をぶつけるおそれがあります。
- ガードロック操作時は、ガードロックアームに指を近づけないでください。はさむおそれがあります。

●ドアガードの操作（半開ストップ機能付き）　※商品によっては半開ストップ機能が付いていない場合もあります。

かけ方　ドアガード受けの突起を倒し、ドアガードアームを受け側へ回転させてください。

外し方　ドアガードアームを受け側と反対に回転させ、受けの突起を元に戻してください。

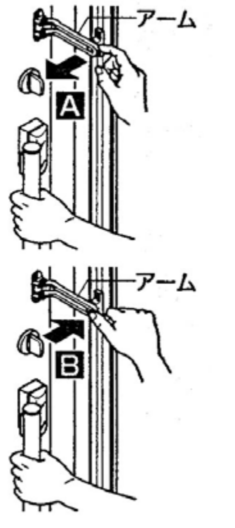
ドアガード受けの上下の調整方法　ドアガードアームとドアガード受けの上下の位置が合わない場合、調整ねじを緩め、ドアガード受けを調整してください。調整後は確実にねじをしめてください。



表示ラベル例

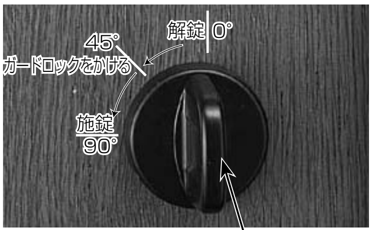
【通風のためドアガードを固定する場合】

- アームの先をA方向に押すと固定されます。
- 固定を外す場合は、アームの先をB方向に押してください。



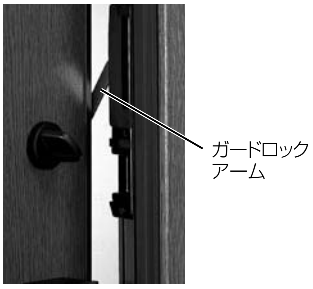
●ガードロックの操作

サムターンを45°回すと、ガードロックが作動し、90°回すとメインロックがかかります。



ガードロック　サムターン

ガードロック未作動時



ガードロック作動時

2 セキュリティサムターンの操作　※商品によって装備されているものが異なります。

☆セキュリティサムターンは、施錠後外すことにより、防犯性を高めることができます。

■玄関用例

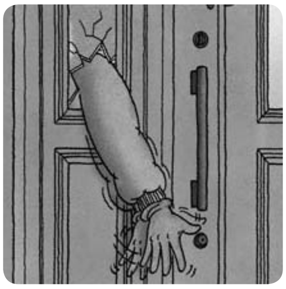
サムターンが装着されている状態
（通常時）

アンビィTX･ボルトNX用

シリンダー下部のボタンを押すだけでサムターンを取外せます

サムターンを取外した状態

セキュリティサムターンを取外し後、鍵をかけて外出。

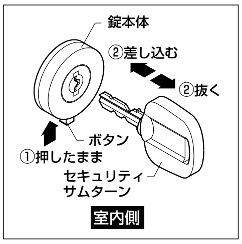

泥棒がドアのガラスを破壊してもサムターンがないため解錠できません。

※商品によっては、施解錠の表示がある場合があります。

緑色：施錠状態
赤色：解錠状態

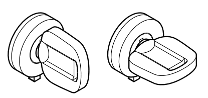
操作上のお願い

- 施解錠の操作時以外は、セキュリティサムターンを必ず抜いてください。
- セキュリティサムターンの抜き差しは、必ず下部のボタンを押したまま行なってください。押さずに抜き差しをすると、錠本体などが破損するおそれがあります。



- セキュリティサムターンを外した後、室外側のカギで施解錠を行うとサムターンの施解錠の向きが変わります。
その場合は必ずセキュリティサムターンを外した状態で室外側のカギで施解錠の操作を行い、サムターンの施解錠の向きを元に戻してください。
セキュリティサムターンの施解錠の向きが変わったまま使用を続けると、サムターンの抜き差しができなくなることがあります。

■サムターンの正しい向き


<解錠状態>　<施錠状態>

■勝手口用例

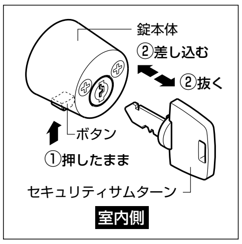
サムターンが装着されている状態

シリンダー下部のボタンを押すだけでサムターンを取外せます。

サムターンを取外した状態

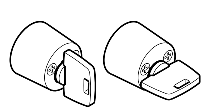
操作上のお願い

- 施解錠の操作時以外は、セキュリティサムターンを必ず抜いてください。
- セキュリティサムターンの抜き差しは、必ず下部のボタンを押したまま行なってください。押さずに抜き差しをすると、錠本体などが破損するおそれがあります。



- セキュリティサムターンを外した後、室外側のカギで施解錠を行うとサムターンの施解錠の向きが変わります。
その場合は必ずセキュリティサムターンを外した状態で室外側のカギで施解錠の操作を行い、サムターンの施解錠の向きを元に戻してください。
セキュリティサムターンの施解錠の向きが変わったまま使用を続けると、サムターンの抜き差しができなくなることがあります。

■サムターンの正しい向き


<解錠状態>　<施錠状態>

3 ドアクローザの調整

⚠ 注　意

●各種取付けねじは、必ず締付けてください。締付けがゆるいと落下・故障の原因になります。
※各種取付けねじは、(6)ネジ緩み箇所の点検を参照してください。

お願い

●閉じ速度は、早くしすぎないでください。指などをはさむおそれがあります。
●調整ねじは、遅くなる方から早くなる方へ調整してください。
●調整ねじは、左へ1回転以上回転させないでください。油もれを起こすおそれがあります。

※ご使用中にいろいろな不具合が発生することがあります。そのままにしておきますと、ドアクローザが破損し、人身事故などの原因になるおそれがあります。次のような不具合がないかどうかお手入れのときなどを利用して点検してください。

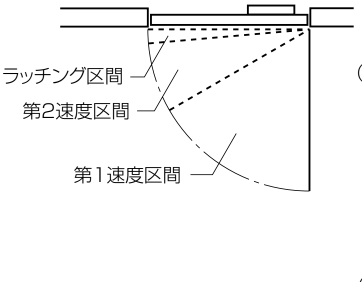
(現象)	(考えられる原因)	(点検箇所)	(対処方法)
ドアの閉じる速度が徐々に速く、または遅くなった	季節の温度変化など	速度調整ねじ	(1)閉じ速度の調整方法を参照願います
ドアの閉じる速度が急に速くなった	油漏れ	ドアクローザ本体	施工された業者様に修理依頼願います
ドアの閉じる速度が急に遅くなった	油の流れがつまっている	速度調整ねじ	(1)閉じ速度の調整方法を参照願います
閉じる際「バタン」と大きな音がするようになった	ねじの緩み	取付ねじ	(6)ネジ緩み箇所の点検を参照願います
	油漏れ	ドアクローザ本体	施工された業者様に修理依頼願います
	ラッチング機構が強すぎる	ラッチングアクション調整ねじ	(2)ラッチングアクションの調整を参照願います
ドアが所定の開放位置で止まらなくなった(ストップ付)	ストップつまみ(ねじ)の緩み	ストップ装置	(3)ストップ角度の設定と(4)ストップ角度の再設定を参照願います
ドアがスムーズに閉まらなくなったり異音がするようになった	ねじの緩み	取付ねじ	(6)ネジ緩み箇所の点検を参照願います
	1,2速のバランスが早い	速度調整ねじ	(1)閉じ速度の調整方法を参照願います
ドアが閉まりきらなくなったり気密材とのすき間ができるようになった	ドアの熱そり(P.49を参照してください)	ラッチングアクション調整ねじ	(2)ラッチングアクションの調整を参照願います

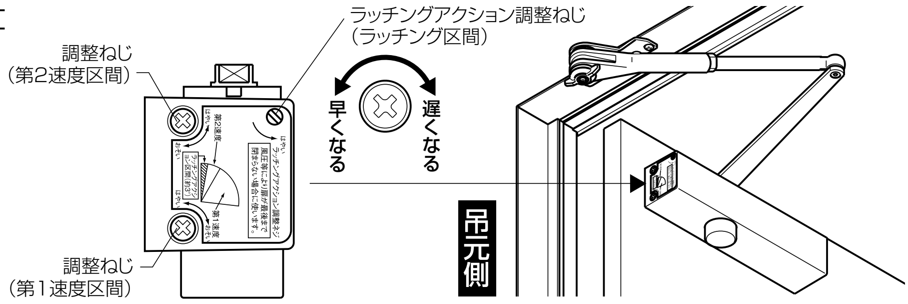
(1)閉じ速度の調整

①閉じ速度は、第1速度区間及び第2速度区間、それぞれ個別の調整ねじで行います。
②速度調整ねじを左右いずれかに回転させます。適正速度は、ドアの閉じ始めから閉じ終わりまで5〜8秒位です。

(2)ラッチングアクションの調整

●ラッチングアクションは、ドアが閉鎖位置直前(約3°)まできた時点でドアを素早く閉める機能です。風が強くドアが閉まりきらない場合などに使用します。
●ラッチングアクション調整ねじを反時計方向に回転すると、素早くドアが閉まります。
※ラッチングアクション調整ねじは左へ2回転以上回転させないでください。





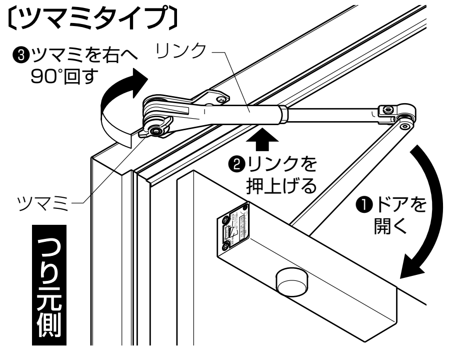
（3）ストップ角度の設定

※商品によって装備されているものが異なります。
①ドアをストップさせたい角度まで開いてください。
②開いた位置でのリンクの↑部を押し上げてください。
リンクが押しあがらない場合は、ドアを前後にゆすりながら押し上げてください。
③ツマミを必ず右へ90°回してください。ツマミが回らない場合は、ドアを前後にゆすりながらやり直してください。または、レバーを倒してください。

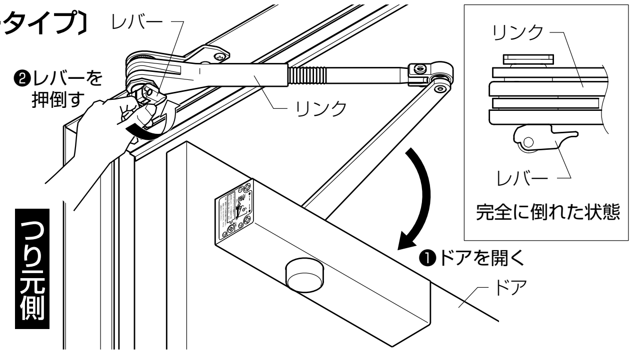
お願い

- **ツマミは必ず右へ90°回すようにしてください。右へ90°回さないとストップ装置の故障の原因になります。**
- **レバーは完全に倒してください。**

〔ツマミタイプ〕

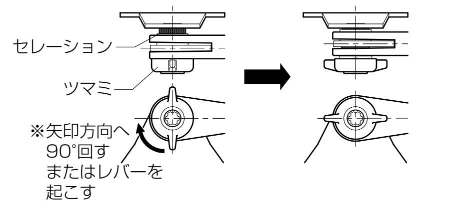


〔レバータイプ〕

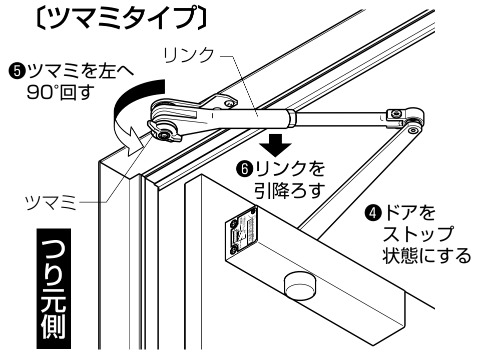


（4）ストップ角度の再設定

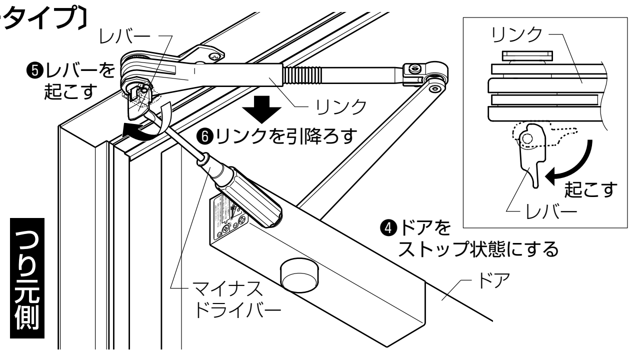
④ドアを開きストップ状態にしてください。
⑤ツマミを必ず左へ90°回してください。またはレバーを起こしてください。
⑥リンクの↓部をいっぱいに引き降ろすとストップ状態が解除され設定前の状態に戻ります。リンクが引き降ろしにくい場合はドアを開く方向に押しながらリンクを引き降ろしてください。
⑦再度、手順①～③にしたがってストップ角度の設定を行ってください。



〔ツマミタイプ〕



〔レバータイプ〕

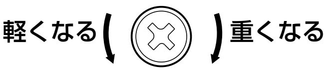


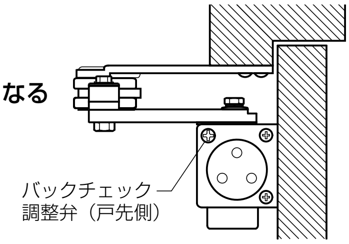
（5）バックチェック強さの調整方法

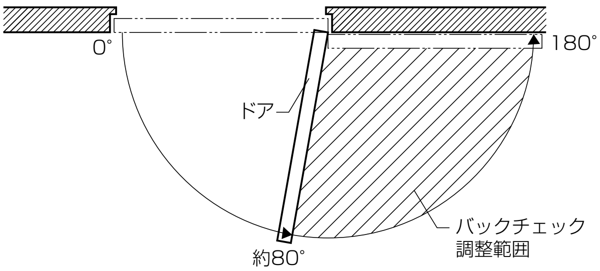
●強風等でドアが急激に開くのを緩和するためバックチェック機構がついています。開扉時、約80°からバックチェック機能がはたらき、ドアを開くのが重くなります。バックチェックの強さは調整弁にて調整してください。

お願い

- バックチェック調整ねじは左右に1回転以上回転させないでください。
強くなる方向に1回転以上回してバックチェックを繰り返し使用するとドア本体、枠に力が加わり製品に変形がおきる場合があります。
弱くなる方向に1回転以上回すと油モレを起こし、正常に機能しなくなるおそれがあります。

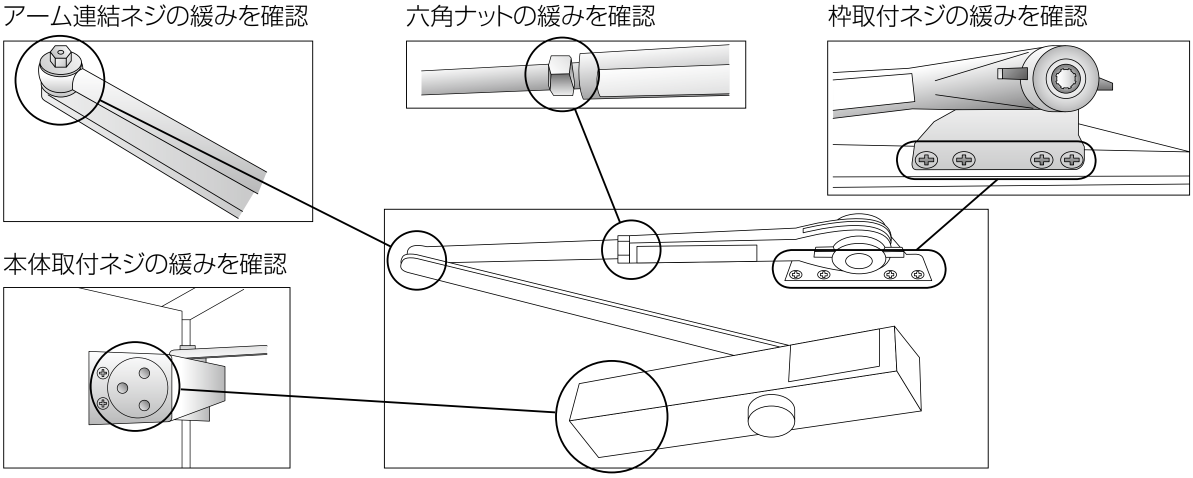






（6）ネジ緩み箇所の点検

各部のネジが緩んできた場合にはドライバーおよび、付属品のスパナで締め直してください。



4 把手（ハンドル）の操作

☆鍵を紛失した時は、防犯の為、シリンダーの交換をおすすめします。

①ノブハンドル　ノブを左右に回して、ドアを開閉させてください。
②レバーハンドル　レバーを下に回して、ドアを開閉させてください。
③バーハンドル　把手（室外）を引き、把手（室内）を押してドアを開閉させてください。

①ノブハンドル

②レバーハンドル

③バーハンドル

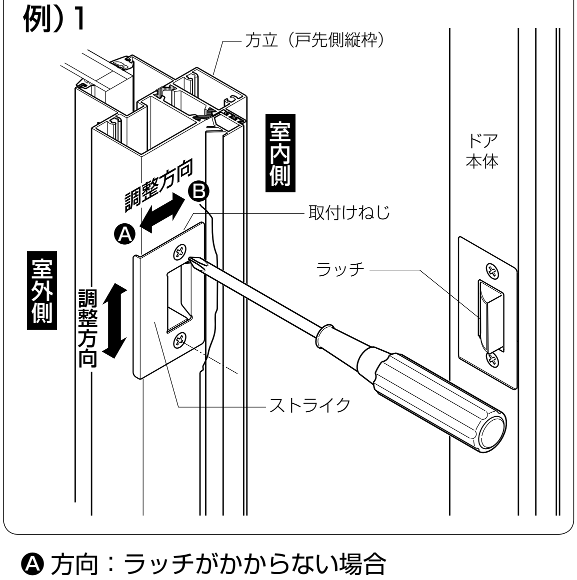
5 ストライク（ラッチ受部、デッドボルト受部）

※商品によって装備されているものが異なります。

お願い
●ストライク取付けねじを全部外さないでください。トロヨケが脱落し、取付けられなくなります。

●ドアのラッチがかからない場合は、ストライクの取付けねじを緩め、ストライクの位置を調整してください。
調整後は確実にねじをしめてください。

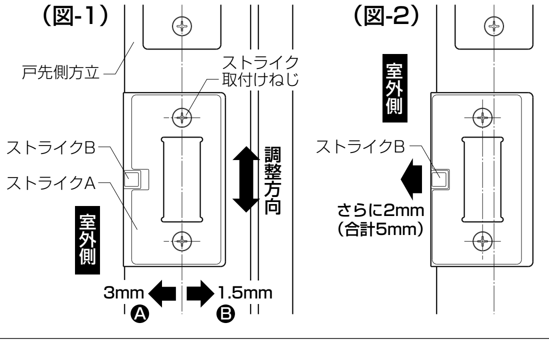
例）1



A 方向：ラッチがかからない場合
B 方向：ドア本体がガタツク場合

例）2

①ストライク取付けねじをゆるめ、ストライクA（表板）を動かして調整してください。（図-1）室外側に3mm、室内側に1.5mm動きます。
②ストライクAで調整しきれない場合は、ストライクA·B（表板+裏板）ごと動かして調整してください。（図-2）さらに室外側へ2mm動きます。（合計5mm動きます）



6 フランス落しの操作

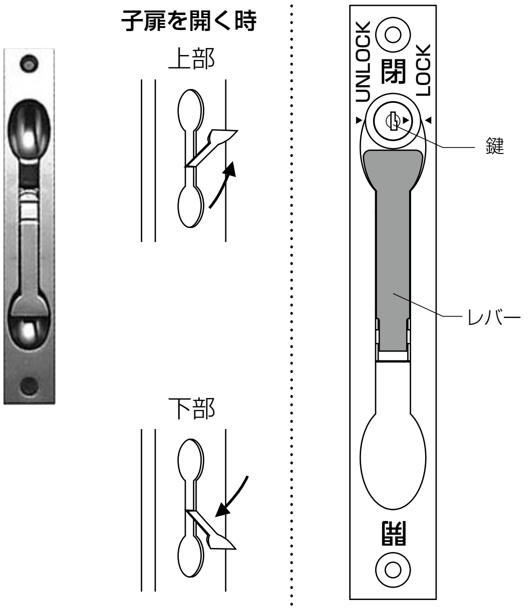
☆ロック付フランス落しの場合は防犯の為フランス落しをロックしていただくことをおすすめします。鍵を紛失した時は、防犯の為、フランス落しの交換をおすすめします。

※ドア本体を開いた状態でフランス落しの上下をともに開方向に操作すれば子扉が開閉できるようになります。

※ロック付きフランス落しは、下側フランス落しのみがロック付きとなります。

※フランス落しを閉める時は、子扉を室内側に押しながら操作してください。無理に操作すると破損する場合があります。

●フランス落しの操作



【ロックなしフランス落し】【ロック付きフランス落し】

7 ツボ（親子、両開きドアの場合）

※商品によって装備されているものが異なります。

●ツボのなかに砂、ほこり等がたまった場合は、清掃してください。

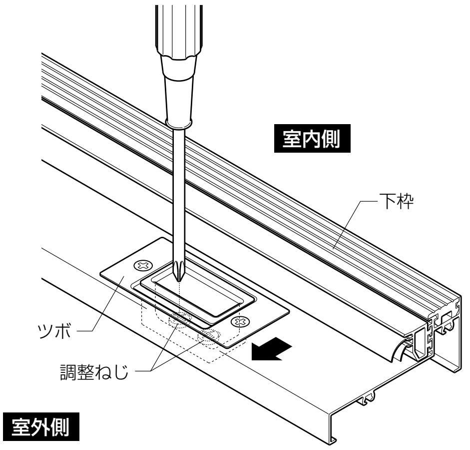
●調整機構付ツボの場合、子扉を室外側に調整できます。

①子扉を開けます。

②ツボ内部の調整ねじをゆるめ、位置を調整してください。室外側に3.5mmまで子扉が動きます。

※上枠･下枠共に調整できます。

※調整後は確実にねじをしめてください。

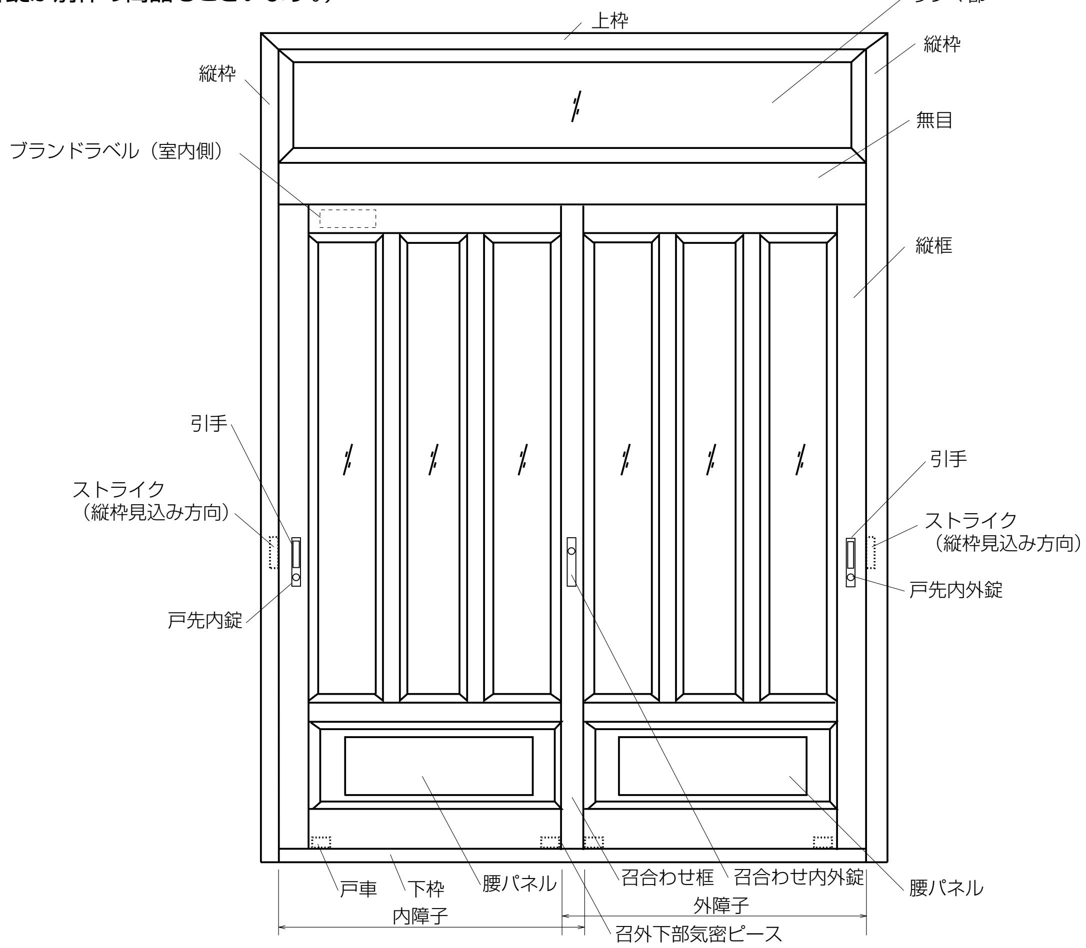


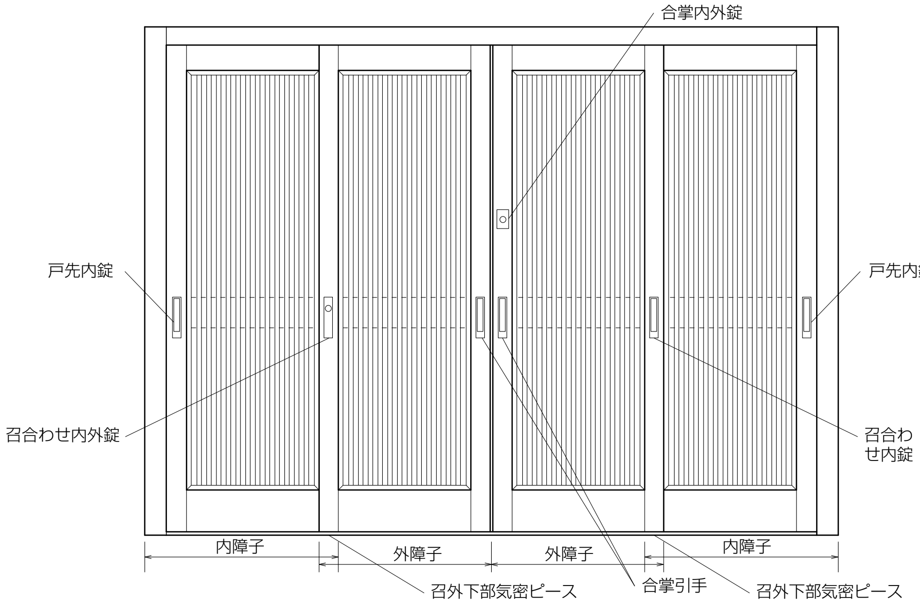
18. 引戸

お願い
●引戸の開閉にあたっては必ず引手を持って操作してください。

■引戸部品名称（外観）

（引手と戸先内外錠が別体の商品もございます。）

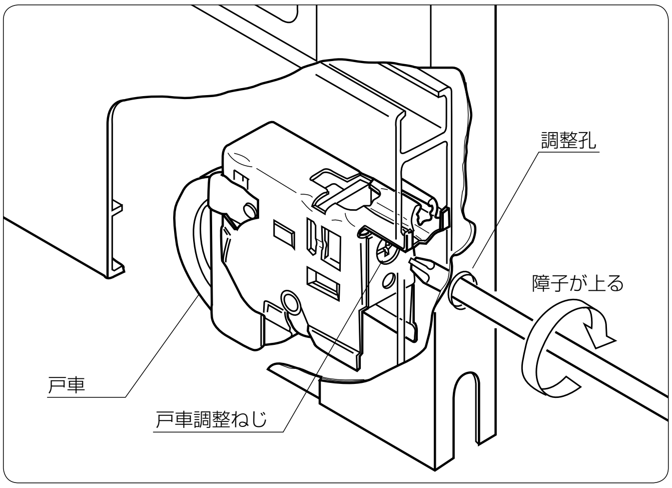


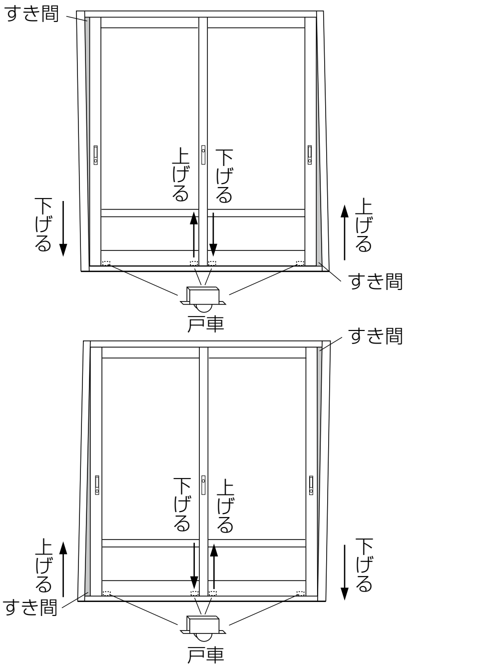


引戸部品の調整方法

戸車の調整

●枠と障子との間にすき間が生じた場合に戸車の調整ねじをまわして障子を上下させることで開口部に合わせる事ができます。





縦框側·召合せ框側どちらの戸車でも調整が可能です。

戸先錠、合掌錠のストライク部調整

●戸先錠（内錠、外錠）のついている商品で錠のかかりにくい場合は、ストライク（錠受け）の取付けねじを緩めて、上下に動かし調整してください。

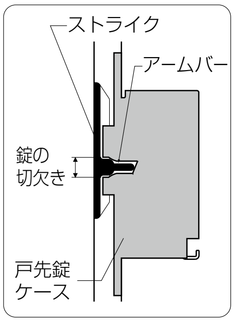
●引戸は種類により、調整が異なります。内障子の右上部にあるブランドラベルをご覧いただき、下記の手順で調整を行ってください。なお、PGシリーズは調整不要です。

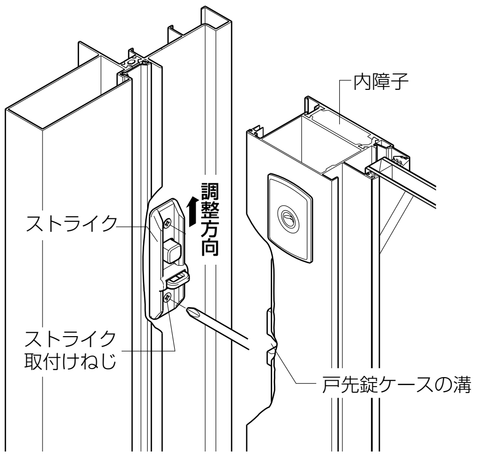
■ストライクの調整（断熱玄関引戸k3·k4シリーズ）

1 上方向の調整

●戸先錠（内錠、外錠）がかかりにくい場合やラッチがかかりにくい場合は、ストライク取付けねじを上下2個所とも緩め、ストライクを上に調整してください。（調整幅:5mm）

※障子を少し開けた状態でアームバーが錠の切欠きの中心にくるように調整してください。



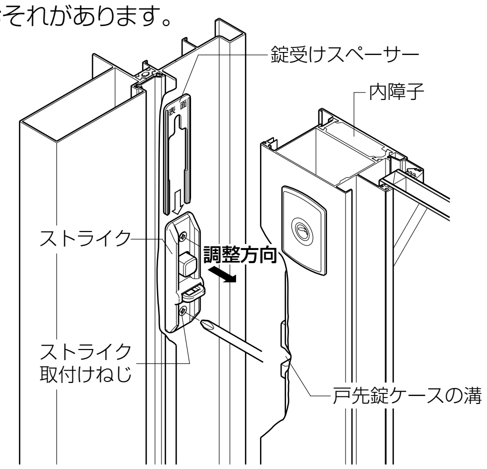


2 出方向の調整

●上方向の調整をしても、錠がかかりにくい場合やラッチがかかりにくい、又はラッチ解除がかたい場合は、ストライク取付けねじを上下2個所とも緩め、錠受けスペーサー(枠に同梱)の裏表を確認して枠とストライクの間に差込んでください。

（調整量:1枚で約1mm）（k6シリーズは調整不要）

※1つのストライクにつき最高で4枚まで入りますが、できるだけ少なくしてください。入れすぎると気密材が当たらなくなり、気密性能が低下したり、ストライクが破損するおそれがあります。

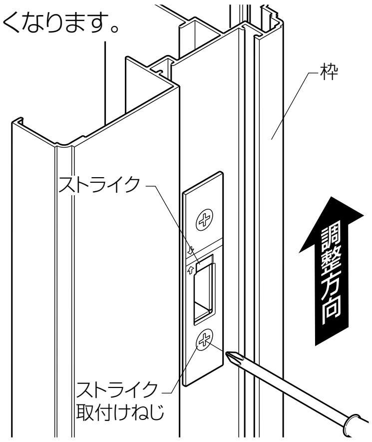


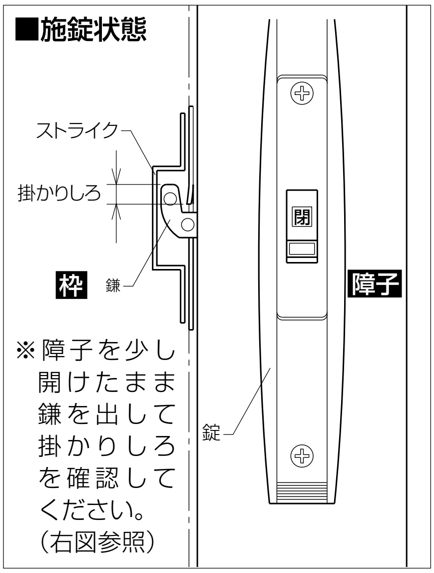
■ストライクの調整（菩提樹）

●戸先錠（内錠、外錠）がかかりにくい場合は、ストライク取付けねじを軽く緩めてストライクの位置を上下に調整してください。（調整幅:6mm）

※調整方法は右記参照

※ストライクの位置を上げすぎると、錠はかかりやすくなりますが、鎌のかかりしろが少なくなり、外れやすくなります。



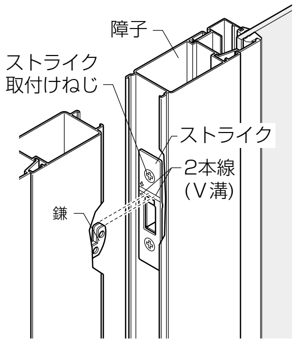


※障子を少し開けたまま鎌を出して掛かりしろを確認してください。（右図参照）

●障子の建付け調整を行った後、錠の**掛かりしろ**を必ず確認してください。

※障子を少し開けたまま鎌を出して、鎌の先端がストライクの2本線内にあることを確認してください。

※位置があっていない場合は、ストライク取付けねじを軽く緩めてストライクの位置を調整してください。

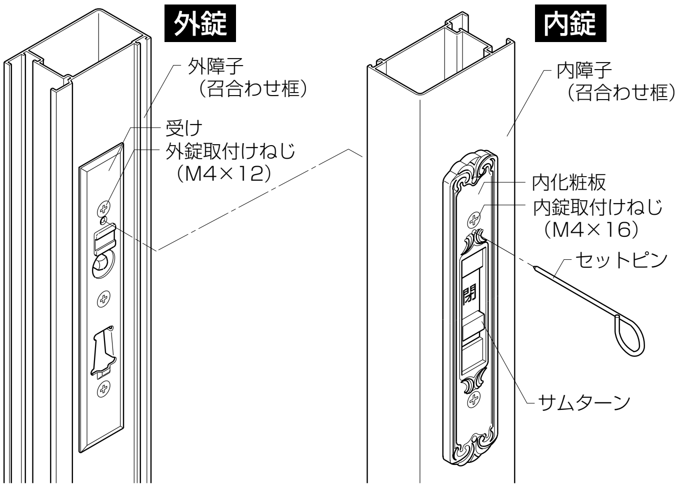


召合わせ錠の調整

※菩提樹、籐樹は、下記の手順で調整を行ってください。

■内錠の調整

●内錠取付けねじ2本を緩め、障子を閉め、サムターンを閉にし、セットピンを根元まで差込んだまま、内錠取付けねじをしっかり締めてください。



お願い

●ご自分で錠の調整が難しいときは、施工された業者にご相談ください。そのままで使用し続けると、錠がキズついたり、破損するおそれがあります。

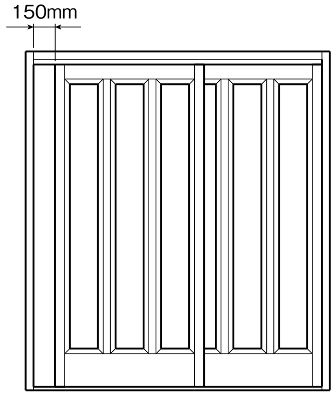
■ノンリバウンド機構について（玄関引戸k6シリーズ）

1 操作方法

※ノンリバウンド機構は、障子を閉めた勢いで縦枠に当たって跳ね返って止まるのを防止するための機構です。

■開け動作

ノンリバウンド機構が動作している区間（戸先から約150mm）は開けるのに重く感じますが、その区間をこえると軽くなります。
区間をこえた位置では、障子はどこでも止めることができます。



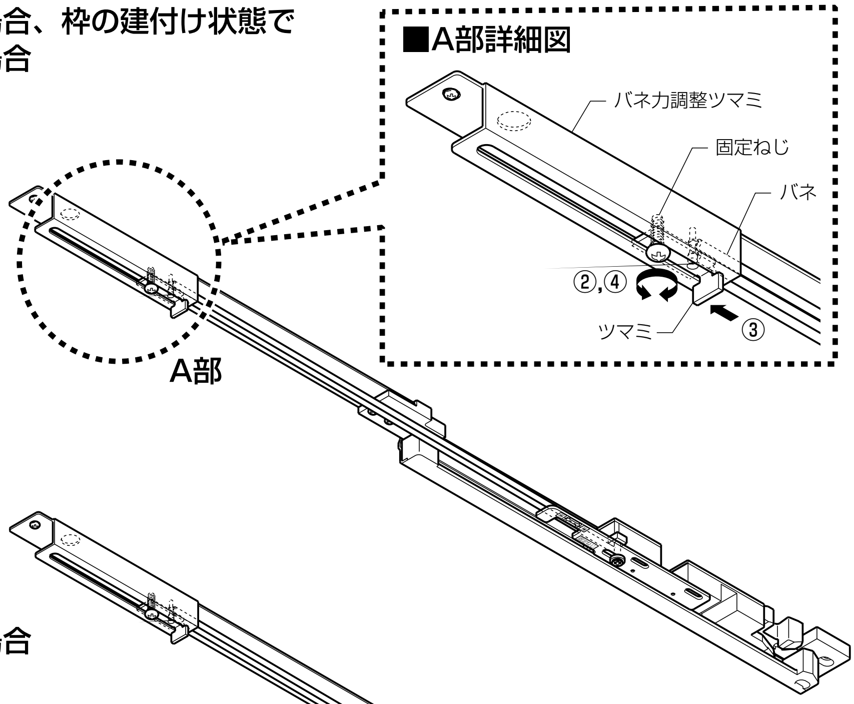
■閉め動作

ノンリバウンド機構が動作している区間（戸先から約150mm）まで障子を閉めれば、その後は（手を離しても）最後まで閉まります。
ノンリバウンド機構が動作する区間までの閉め方（勢い）、障子重量、枠の建付け状態、周囲の温度によってブレーキのかかり具合、閉まり時間は変化します。
閉まり時間が長い場合は、ある程度勢いをつけて閉めてください。

2 調整方法

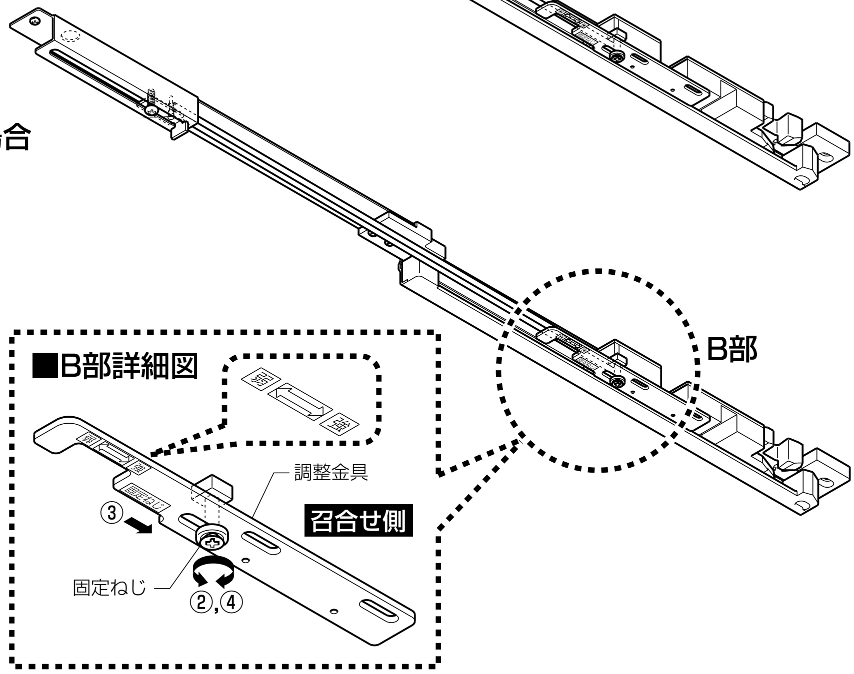
■閉まり時間を早くしたい場合、枠の建付け状態で最後まで閉まりきらない場合

※動作区間までの障子を閉めるスピードを早くする、又は以下の手順で引込む力を調整してください。
①障子を全開位置まで開ける。
②バネ力調整ツマミの固定ねじをゆるめる。
③縦枠側（バネを引っ張る方向）にツマミを動かす。
④固定ねじを締める。
※動かしすぎると障子を開く力が重くなります。



■衝撃吸収力が物足りない場合

※動作区間までの障子を閉めるスピードをゆっくりにする、又は以下の手順で衝撃吸収力を調整してください。
※障子の閉まり時間が長くなりますので、外気温が上昇する季節のみの調整をおすすめします。
①障子を全開位置まで開ける。
②調整金具の固定ねじをゆるめる。
③調整金具を“強”の方向（召合せ側）に移動する。
④調整金具の固定ねじを締める。
※外気温が低いときは、この手順の逆に調整して元に戻していただくことをおすすめします。



セキュリティサムターンの操作方法

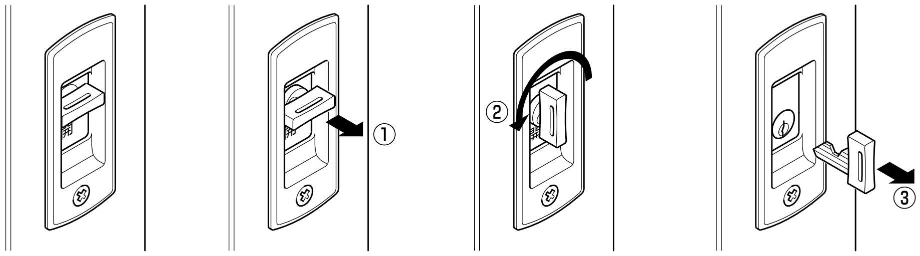
（断熱玄関引戸k3、k4シリーズ）

■ツマミを外す場合

①ツマミを引張りながら②左にまわすと③ツマミが抜けます。
④ツマミが抜けた後、セキュリティサムターンのシリンダーは一番下まで下がった状態になります。

■ツマミを取付ける場合

●ツマミを差込み、右にまわしてゆっくり上げます。



【解錠状態】　①ツマミを引張る　②ツマミを引張りながら回転させる　③ツマミが抜けます

※施錠状態からの取外しも同様です。

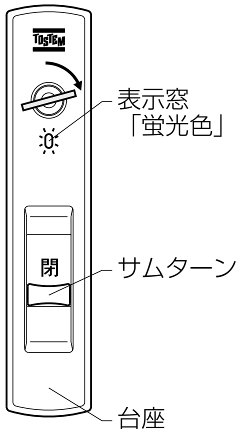
セキュリティサムターン操作方法

（断熱玄関引戸PGシリーズ、玄関引戸k6シリーズ、断熱玄関ドア・引戸 エスキューブ）

●本セキュリティサムターンは、外装用の鍵（施主キー）で内錠のシリンダーを操作することでサムターンをセキュリティ状態にセットすることができます。

【セキュリティ状態】

●サムターンを操作しても施解錠操作ができない状態。（外出時など、ガラスを壊されても解錠操作ができないため、不正侵入を防止できます。）



〈セキュリティ状態のセット方法〉

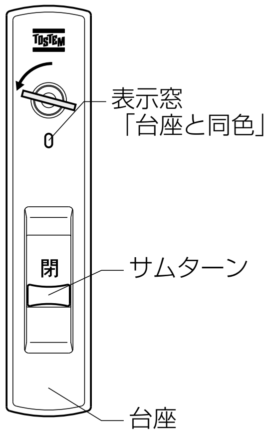
①鍵を室内側のシリンダーに差込み、右に回転させます。
②表示窓の色が「蛍光色」に変わります。
③鍵を水平に戻して抜きます。
※セット後は、サムターンで施解錠の操作はできません。

【通常状態（セキュリティ解除）】

●サムターンを上下に操作すると施解錠ができる状態。

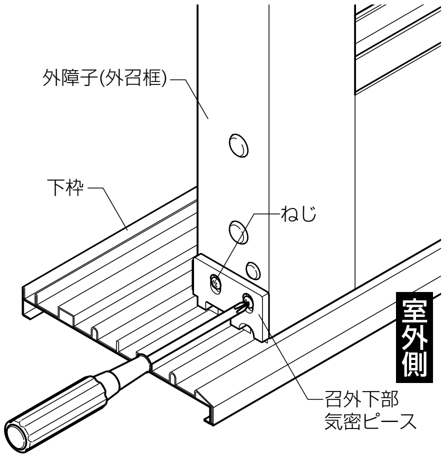
〈セキュリティ状態の解除方法〉

①鍵を室内側のシリンダーに差込み、左に回転させます。
②表示窓の色が「蛍光色」から「台座と同色」に戻ります。
③鍵を水平に戻して抜きます。
※サムターンをゆっくり上にあげると解除されます。（通常状態になります。）
※セキュリティ状態のときは、サムターンの表示が「閉」であっても、施錠されていないおそれがありますので、就寝時などは、施錠されているかを確認してください。

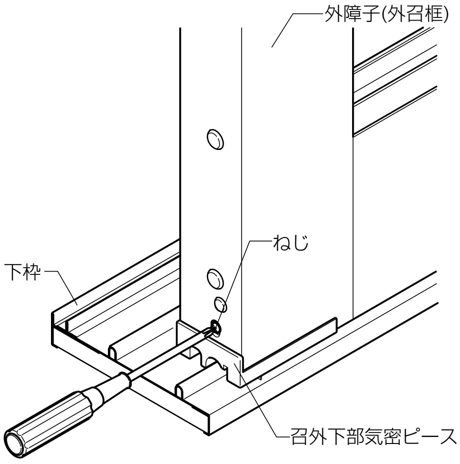


召外下部気密ピースの調整

●気密性を保つために気密ピースを下げて、外障子と下枠のすき間を発生させないように調整してください。
●障子を閉めた状態で召外下部気密ピースのねじを緩めて下げ、下枠に当ててねじを締めます。



（断熱玄関引戸k3、k4シリーズ）
（玄関引戸k6シリーズ、一部機種）



（PGシリーズ）

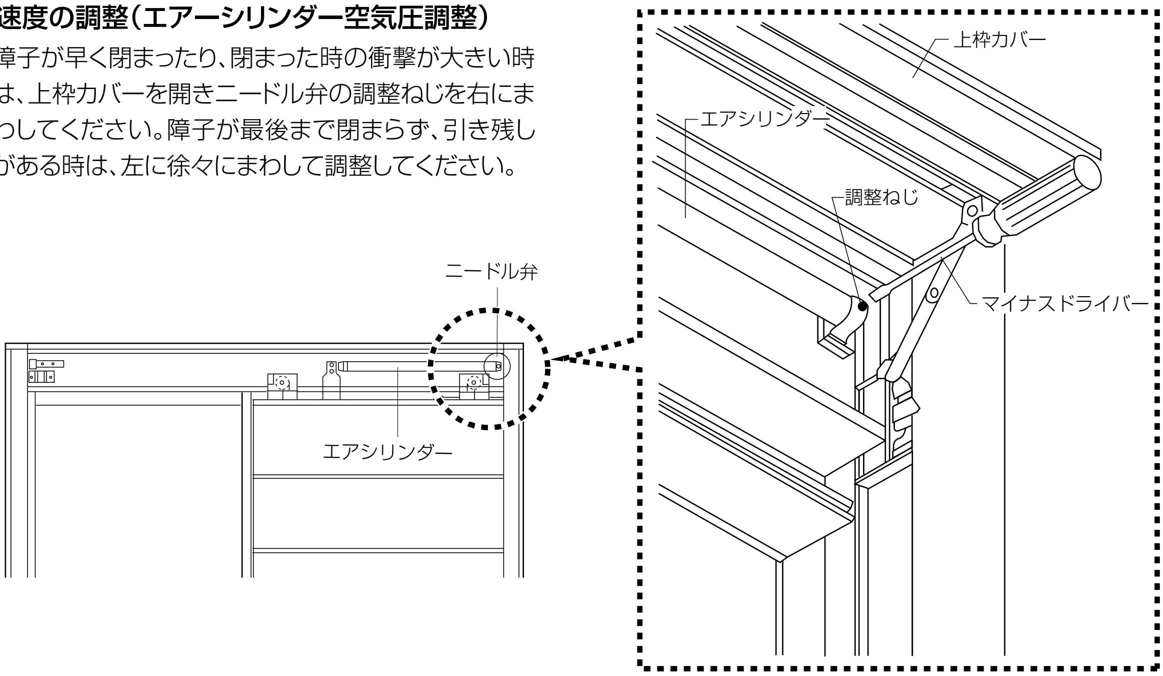
玄関引戸クローザの速度調整

（ノーバスII）

☆玄関引戸クローザの速度調整の際には必ず施工された業者にご相談ください。

■速度の調整（エアーシリンダー空気圧調整）

●障子が早く閉まったり、閉まった時の衝撃が大きい時は、上枠カバーを開きニードル弁の調整ねじを右にまわしてください。障子が最後まで閉まらず、引き残しがある時は、左に徐々にまわして調整してください。



第4章 お手入れ方法（清掃方法）

いつまでも美しく商品をお使いいただくために、それぞれの性質に応じた方法で、定期的なお手入れが必要です。

1. アルミ製商品のお手入れ

お掃除はなるべくマメに

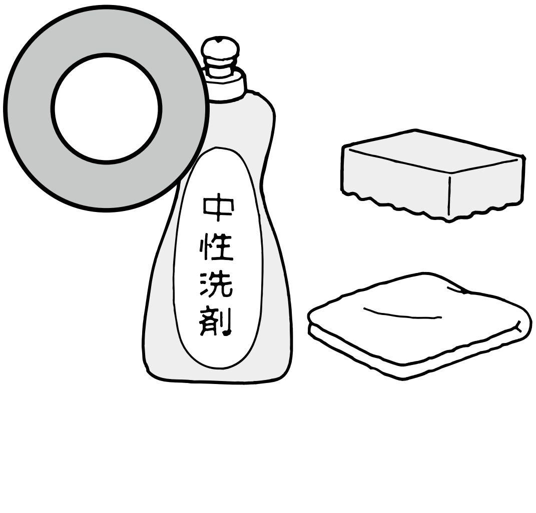
アルミは比較的腐食しにくい材質ですが、それでも砂、ほこり、塩分などがついたまま長いあいだ放置しておくと、空気中の湿気や雨水の影響を受けて、腐食が発生する原因になります。汚れが軽いうちに清掃してください。清掃の目安は、少なくとも年に1〜2回程度です。特に海岸地帯や交通量の多い道路沿いは、塩分や排気ガスによる汚損が進みやすいので、こまめにお手入れしてください。

お手入れ方法

①表面についた砂やほこりをていねいに取除きます。隅の清掃は歯ブラシを利用すると便利です。
②水でぬらした柔らかい布又はスポンジで全体の汚れを拭き取ります。特に汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めた液で汚れを落とし、そのあと水洗いします。
③最後に、かたく絞った柔らかい布又はスポンジで全体を拭き取ります。

お手入れのご注意

●洗浄剤や薬品は、中性のものを使用してください。
　酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品、及びアルコール以外の有機溶剤はアルミサッシやステンレスなどの金属部分を腐食させたり、塗膜はがれを引き起こしますので、絶対に使用しないでください。
●お手入れの際には柔らかい布又はスポンジなどを使い、ワイヤーブラシやサンドペーパーのご使用はさけてください。
●表面の光沢やツヤが落ちてきた時には自動車用ワックス（研磨材の少ないもの）を使いメンテナンスを行ってください。
　光沢やツヤが回復します。
①ホワイト色にはホワイト専用のワックスをお使いください。
②ブロンズ色にはホワイト以外のワックスをお使いください。
③ツヤ消しのアルミサッシには表面のツヤにムラができますのでワックスは使えません。
●マジックインクなどが附着した時にはアルコールで軽くこすって除去してください。



2.樹脂製商品のお手入れ

断熱商品には性能を高めるため、枠および障子が樹脂で作られているものがあります。
樹脂の中でも特に酸、アルカリに対して強い材質を選択していますが、長く快適に使用していただくために、
樹脂製商品に対して注意すべき点があります。

お掃除はなるべくマメに

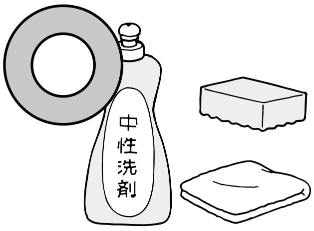
樹脂商品の場合、レール部分にたまった砂やゴミをそのままにして使用を続けると、傷の原因となりますので、なるべくこまめなお手入れをおすすめします。

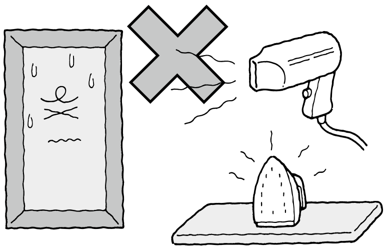
お手入れ方法

①表面についた砂やほこりをていねいに取除きます。隅の清掃は歯ブラシを利用すると便利です。
②水でぬらした柔らかい布又はスポンジで全体の汚れを拭き取ります。特に汚れがひどい場合は、中性洗剤で汚れを落とし、そのあと水洗いします。
③最後に、かたく絞った柔らかい布又はスポンジで全体を拭き取ります。

お手入れのご注意

●洗浄剤や薬品は、中性のものを使用してください。
酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品及びアルコール以外の有機溶剤は樹脂部材を溶かしたり、表面と塗装のはがれを引き起こしますので絶対に使用しないでください。
●お手入れの際には柔らかい布又はスポンジなどを使い、ワイヤーブラシやサンドペーパーのご使用はさけてください。
●樹脂製品にストーブ、ドライヤー、アイロンなどを近づけたり、接触させないでください。
●マジックインクや塗料が附着すると落ちなくなりますのでご注意ください。





3.鋼板製商品（鏡板・雨戸パネル）のお手入れ

鋼板製商品は腐食に対する注意が必要です。そのため表面についた汚れは早めに落とすように心がけてください。

お手入れ方法

①表面についた砂やほこりをていねいに取除きます。
②水でぬらした柔らかい布又はスポンジで全体の汚れを拭き取ります。特に汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めた液で汚れを落とし、そのあと水洗いします。
③最後に、柔らかい布又はスポンジで乾拭きしてください。

お手入れのご注意

●洗浄剤や薬品は、中性のものを使用してください。
酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品及びアルコール以外の溶剤は表面材の腐食や表面塗装のはがれを引き起こしますので絶対に使用しないでください。
●お手入れの際には柔らかい布又はスポンジなどを使い、ワイヤーブラシやサンドペーパーのご使用はさけてください。
●マジックインクや塗料が附着すると落ちなくなりますのでご注意ください。

4.鋼板ドア・引戸表面材のお手入れ

いつまでも美しくお使いいただくために、定期的にお手入れをおすすめします。

お手入れ方法

汚れを放置しておきますと落ちにくくなる場合があります。定期的にクリーニングを実施することをおすすめします。
特に下記地域ではお手入れの頻度を1ヶ月に1回程度おすすめします。
·沿岸地域(日本海側では沿岸から離れていても1ヶ月に1回程度のお手入れをおすすめします)
·凍結防止剤を使用している地域　　·交通量の多い道路沿い

■鋼板製品の敵は、腐蝕

トステムの鋼板製品は、腐蝕に対して万全の備えをしています。しかし鋼板にはどうしても腐蝕に弱い性質があるため、表面についた汚れは早めに落とすように心がけてください。

■万一、サビが発生したら

目のこまかい紙ヤスリなどでサビを完全に落としたあと、市販のスプレー式透明ラッカーを吹きつけてください。

■お手入れ方法

①流水をかけながら柔らかい布を用いて汚れを洗い流してください。
※硬い布やブラシなどで強くこすると、ドア表面材に傷をつけてしまいますので、ご注意願います。
1)流水などで汚れが除去できない場合は、中性洗剤を5～10%程度に薄め、柔らかい布に十分含ませて、汚れ部の拭き取りをしてください。
2)中性洗剤でも汚れが除去できない場合は、換気扇·レンジの油汚れ用クリーナーを吹き付けて、2～3分放置してから拭き取りをしてください。
②柔らかい布で丁寧に水拭き仕上げをしてください。
※水拭き仕上げが不十分な場合、クリーナーに含まれる界面活性剤などにより、多少表面にムラが残る場合があります。
③柔らかい布で乾拭きして、水を拭き取れば理想的です。
※万が一、上記の場合で落ちない汚れは、タオルにエタノールを含ませて拭いてください。その際、エタノールが商品に付いた状態で放置しないで拭き取ってください。放置すると、シミや変色の原因になります。

■ドア表面の光沢がなくなった場合(グロスレッド·グレイスマホガニー·バーズアイメープル)

研磨剤が入っていないタイプの自動車用ワックスを柔らかい布に付けて磨いてください。

■ドア表面に浅い傷がついた場合

プラスチックみがき専用のコンパウンド(ソフトコンパウンド)で磨いてください。
①傷の原因となる砂、ホコリはあらかじめ水を含んだ柔らかい布で落として、きれいにしておいてください。
②綿の布にコンパウンドを少量つけてヘアーライン方向に直線的に磨いてください。
③別のきれいな布で良く拭きとってください。

お手入れのご注意

●洗浄剤や薬品は、中性のものを使用してください。
酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品及びアルコール以外の溶剤は表面材の腐食や表面塗装のはがれを引き起こしますので絶対に使用しないでください。
●お手入れの際には柔らかい布又はスポンジなどを使い、ワイヤーブラシやサンドペーパーのご使用はさけてください。
●マジックインクや塗料が附着すると落ちなくなりますのでご注意ください。

5.網戸のお手入れ

網戸もときどきお手入れし、きれいな状態でご使用ください。

お手入れ方法

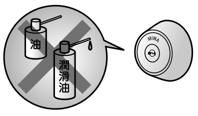
●網戸をはずし、室内側の面を下にして床に置き、柔らかい布又はスポンジ、ブラシなどで水洗いしてください。
油汚れがひどい場合には、水で薄めた中性洗剤をつけた柔らかい布またはスポンジで軽く拭いてください。

お手入れのご注意

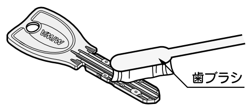
●室内側の面を上にしたり、網戸をたてたまま洗うと、網が押されて緩んだり、破れたりするおそれがありますので、必ず室内側の面を下にして掃除してください。

6.ドア･引戸用鍵のお手入れ

お手入れ方法



鍵穴の抜き差しがスムーズでない、または重い時、以下の手順でお手入れを行ってください。
①鍵穴のゴミやホコリを吐き出してください。
　鍵穴のゴミやホコリはパソコンのキーボード用のエアーダスター等を使用し、吐き出してください。
　掃除機で吸い出す方法もあります。
②キーの刻み部分や溝部の汚れ（ゴミやホコリ）を取り除きます。
　歯ブラシ等で、刻み部分や溝の汚れを掻き出してください。（定期的な清掃をお願いいたします。）
③鍵穴の抜き差しがスムーズでない、または重いとき。
　1）鍵のすべての刻み部分を鉛筆（先端の黒芯）でなぞるように黒く塗り、その鍵を鍵穴に挿入して
　　数回抜き差しをしてください。鍵の抜き差しがスムーズになります。
　　または、錠前専用の潤滑剤「DASZ020」あるいは、「TVBZAM001」を鍵穴に0.5秒程度
　　吹き付けてください。吹きつけすぎると、かえって動作が悪くなる場合があります。
　2）鍵の抜き差しがスムーズになりましたら、鍵に付着している黒い粉または潤滑剤を布等でふき
　　取ってください。付着したまま使用されますと、衣服等を汚す場合があります。



お手入れのご注意

●鍵穴には油･CRCなどの液状の潤滑油は絶対に使用しないでください。ホコリが堆積し、すぐに作動不良になり故障の原因になります。当社指定の「鍵穴用パウダー潤滑剤（商品コード：DASZ020）」をお求めください。
　JNシリンダーは、JNシリンダー専用の「鍵穴用パウダー潤滑剤（商品コード：TVBZAM001）」をお求めください。 なお、鍵穴用パウダー潤滑剤は、トステムパーツショップにて購入可能です。

DASZ020
（JNシリンダーを除く）

TVBZAM001
（JNシリンダー専用）

合鍵の発注方法

●お施主様がお持ちになる鍵のナンバー情報保護のため、合鍵は裏表紙記載のトステムパーツショップもしくは当社お客様相談センターに直接ご発注ください。

7.FRPドアのお手入れ

いつまでも美しくお使いいただくために、定期的なお手入れをおすすめします。

お手入れ方法

●汚れを放置しておきますと落ちにくくなる場合があります。2ヶ月に一度を目安に定期的なお手入れを行ってください。
①水でぬらしたぞうきんで全体を拭き、表面についたほこり、砂などを取り除いてください。
②特に汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた液で汚れを落してください。
　酸性薬品、アルカリ性薬品、塩素系薬品及びアルコール溶剤は表面塗装のはがれを引き起こしますので絶対に使用しないでください。
③そのあと洗剤がのこらないようによく拭きとってください。　④最後に全体をから拭きしてください。

お手入れのご注意

●洗剤は水で薄めた中性洗剤以外使用しないでください。　●柔らかい布をご使用ください。

キズがついた場合

●メンテナンス用部品 補修用タッチペンで補修してください。（別途有償品で設定しています。）

表面の再塗装

FRPドアは金属製のドアやアルミドアと比べ、耐食性に優れた性質をもっていますが、直射日光に長時間当たると紫外線劣化による塗装の色落ち･変色が起こる事があります。
さらに塗装面の劣化が進行するとFRP内部のガラス繊維が浮き出てきて表面がザラつきます。
そのような状態になる前に、約3～5年で、クリア塗料で上塗り塗装をしていただくことにより、長くきれいな状態でお使いいただけます。「ワシン屋外木部用水系塗料（艶消し透明仕上げ）。」を推奨しています。

●メンテナンスをしない場合の変化
　表面は塗装ですので、直射日光によって、色褪せが発生します。
　変色してしまって、再塗装される場合は、専門の塗装業者に依頼するか、弊社までお問合せください。
　塗布期間の目安については、設置環境や取付け状況により大きく異なります。

第5章 商品のご使用にあたって

1. 窓の結露について

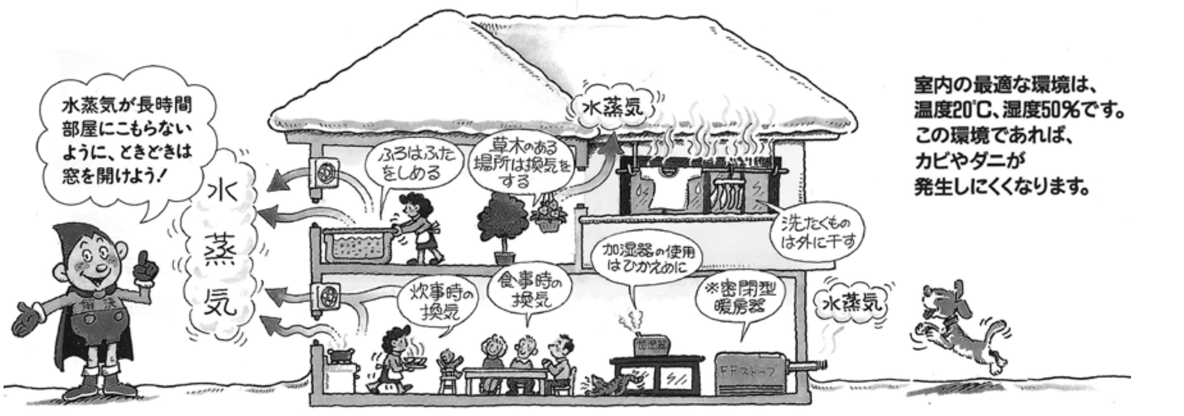
■結露についての注意

結露が発生した場合は、床や壁の汚損防止、木部や壁の腐食防止の為に、こまめに拭き取ってください。
窓ガラスやサッシ部分の結露は、室内外の温度差が大きく室内の湿度が高い場合に、自然現象として季節を問わず発生します。したがって断熱サッシを使用しても室内外の条件によっては結露が発生する場合が有ります。
また、新しく建てた家は、木材などがまだ多く水分を含んでおり、室内にも多くの水蒸気を放出します。
その為、室内の湿度が高くなりやすく、窓などに結露が発生しやすくなります。

■結露を抑えるには

結露を抑える為には、低温部分を作らず、室内の湿度をできるだけ低くすることが大切です。
どちらか一方だけに気をつけても結露は防ぐ事はできません。

①低温部分を作らない為に
　断熱材や、断熱型サッシを使用して壁や窓の表面温度をできるだけ室温に近づける事が大事です。
　シャッターや雨戸がある場合にはこまめに閉めるように心がけましょう。
　また、室温は適温に保つように心がけましょう。
　（冬20℃～23℃、夏25℃～28℃）
②湿気を抑えるには
　人が快適と感じる湿度は40～60%と言われています。
　この快適な湿度を保つ為にも水蒸気の発生を抑えましょう。具体的には以下の事に気を付けてください。
・室内で洗濯物を干さない
・浴室の入り口の戸を開け放しにしない。
・加湿器の使用は控えめに
・水蒸気の発生しない暖房器（エアコン、電気ストーブ）や密閉型の暖房機（FFストーブ）を使用する。
　また、換気扇、窓を開けるなどして十分換気を行いましょう。湿った空気を外に出す事で室内の湿度はぐっと下がります。



2. 窓シャッターについて

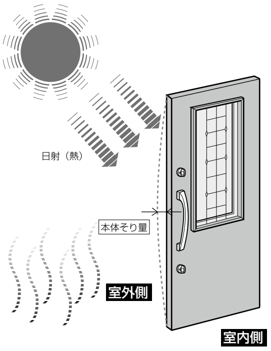
●シャッターを閉めた状態で、強風によりスラットがバタツキ、音がしたりすることがありますが異常ではありません。
●スラットの表面が、雨などに濡れている状態でシャッターを開閉操作すると、水滴が落ちてくることがありますので、静かに開閉してください。これはシャッターを巻き上げたとき、スラット同士が重なることで表面についた水が内側につく為です。
●シャッターを閉めた状態でも、スラットの内側が濡れることがあります。これはスラットの表面に横向きの風雨があたった場合、スラットの表面から内側に水が伝わるためです。品質に問題はありませんので安心してお使いください。
●スラット重量と巻取り軸に内蔵のスプリング力でバランスをとる構造になっております。商品の特性上、バランス状態により開閉力が一定ではありません。
●開閉力は年月と共に重くなってきます。これは各部への砂、チリ汚れ等の付着や摩耗によるものです。
●シャッターを閉めても各部のすきまから、外からの光が入ることがあります。さらに光をさえぎる場合は、遮光カーテン等をご使用ください。

3. 二重サッシの雨水の浸入について

二重サッシで窓を閉める場合は必ず外窓、内窓両方を閉めてご使用ください。
外窓を開放し、内窓のみを閉じている場合に雨が降って枠に雨がかかりますと漏水がおきる危険性があります。

4. 断熱ドア・引戸の熱ソリについて

断熱ドアは室内外で熱を伝えにくい構造としてあるため、直接、日差しがあたるなど室内外の温度差によってはドアの本体にソリが発生する場合があります。（最大ソリ発生量は4～5mm）
このソリは、日差しの角度がかわるなど、表面の温度差が小さくなると元に戻るので、ドアの不具合ではありません。
本体のソリが発生してドアが閉まりにくい、又はすき間が発生して気になる時は、ストライク（錠受け金具）、ドアクローザツボでの調整にて対応をお願い致します。
ストライク（ラッチ受部）の調整方法…P.31
ドアクローザの調整方法…P.29～31
ツボの調整方法…P.32



5. 玄関ドア・引戸などからの雨水浸入について

強風雨時、玄関ドア・玄関引戸または勝手口ドア・勝手口引戸から雨水が浸入することがあります。
玄関はポーチ屋根により通常の風雨を防げること、玄関は居室と違い土間がタイルなどで仕上げられ、濡れても問題ではなかったことなどから、玄関および勝手口（土間納まり）の出入り口に使用されるドア・引戸には、居室に使用されるサッシと同等の水密性能は要求されていません。また、ドア・引戸の施錠機構は、サッシに採用されているような、枠と障子を密着させて雨水浸入を防止する引き寄せ構造にはなっていないのが一般的です。
玄関のポーチ屋根の大きさ、勝手口の庇の有無などにより、強風雨時にドア・引戸の枠と本体の隙間、ガラスやパネルの額縁廻りから雨水が土間に入ることがありますが、製品の不具合ではありません。

6. 玄関ドア・引戸からの音鳴り現象について

玄関ドア・引戸に太陽光が当たると、パキパキ、ギシギシ、コーンなどの異音が発生することがまれにあります。
これは、玄関ドア・引戸は窓に比べて商品を構成している部材数が多く、また、その表面積も大きいために、太陽光を直接受けて温度上昇が生じる室外側と太陽光を受けない室内側とで表面の温度差が生じやすく、この温度差に伴う熱膨張の差で生じる室内外面のわずかなゆがみと、たて横の大小の構成部材間で異なる熱膨張とが重なって生じる摩擦により異音が発生することがあります。
このような音の発生現象は、特に春先や秋口など外気温が低い時期に、玄関に陽が当たるとまれに発生することがありますが、立地条件や季節、使用材料の特性（熱伸び率の差）などの違いにより起きる不可抗力現象であり、ドア・引戸の不具合によるものではなく、また必ず発生するものでもありません。音は陽が高くなって外気温が上がったり陽がかげったりすれば、自然にやみます。

7. 玄関ドア・引戸の表面温度について

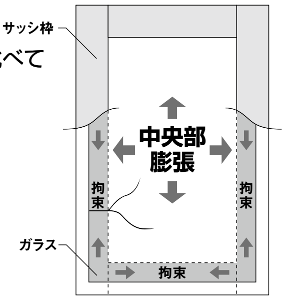
商品をご使用中、ドア・引戸全体が熱くなることがありますが、これは<u>玄関ドア・引戸全体に長時間直射日光があたり、表面温度が上昇することで発生</u>します。
特に、ブラック・オータムブラウンなどの色の濃い商品ほど表面温度が上昇しますので、直射日光が強い時間帯はヤケドをする恐れがありますので、開閉の際はご注意ください。

8. ガラスの熱割れについて

窓にはめ込まれたガラスが太陽光があたることにより、その熱で割れることがあります。これを「熱割れ」と呼んでいます。窓ガラスに直射光を受けると、照射された部分は吸熱のため高温となり膨張します。一方、周辺のサッシにのみ込まれた部分や、影の部分はあまり温度上昇せず、低温のままとなります。この低温部は高温部の熱膨張を拘束し、結果としてガラス周辺部に引張応力が発生します。この熱応力は被照射部と周辺部との温度差、すなわち板内温度差に比例し、ガラスのエッジ強度をこえる引張応力が発生すると熱割れとなります。ガラスにひび割れが発生したら、すみやかに、ガラス交換を行ってください。

●熱割れの防止

- **室内側に熱だまりができ、ガラスが高温となるような部位への取り付けは避けてください。**
- **ガラス面への日射が均一でなく部分的に日陰ができるとガラス板内の温度分布が変わり、影のない場合に比べて発生熱応力が大きくなり、熱割れが発生しやすくなります。このような部分への取付けは避けてください。**
- **冷暖房の吹き出し空気や熱を直接ガラスに当てたり、強い照明を当てたりしないでください。**
- **ガラス面に紙やフィルムを貼ったり、ペンキを塗ったりしないでください。**
  その部分の日射吸収率が極端に大きくなります。
- **室内側にカーテンやブラインド、その他の遮蔽物を密着させないでください。**
- **網入り板ガラスは、金属網がガラスに封入されているため、切断時にガラスの切り口にキズが付きやすく、許容応力が一般の板ガラスの半分程度になっているため、熱割れがより起こりやすくなります。**



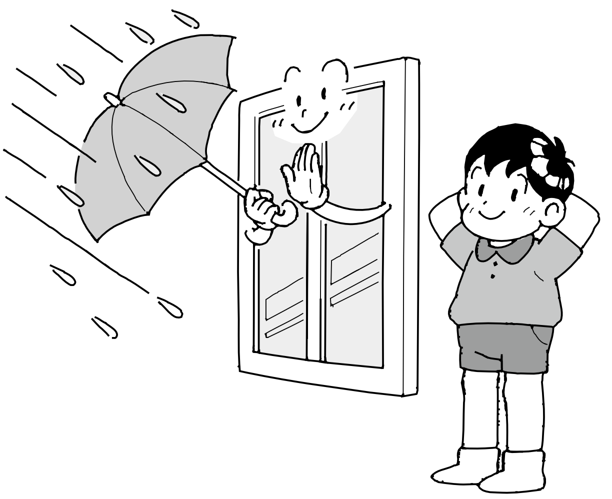
第6章 窓の性能について

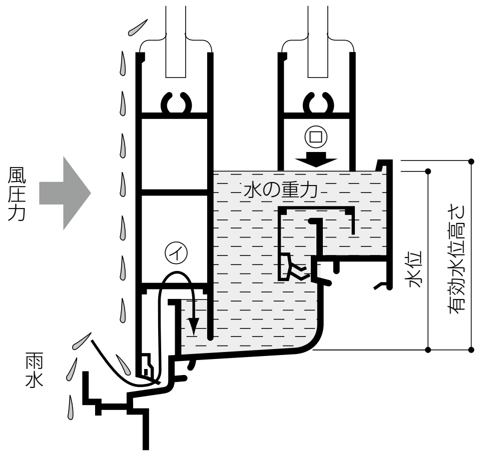
窓やドアについて説明します。

1. 水密性

水密性とは、風を伴った雨の時に屋内への雨水の浸入をどれくらいの風圧に対してまで防げるかを表す性能です。
また、水密性はJISで決められている等級で表し、W−1、W−2、W−3、W−4、W−5の順に水密性が高くなります。
一般的に、住宅の場合、W−2またはW−3の等級が必要となっており、W−2等級とは、1時間あたり降雨量240mmの時に、風速16m/sに相当する風が吹き荒れている状況でもサッシから雨水が浸入しないということであり、W−3等級とは、同じ1時間あたり降雨量240mmの時に、風速20m/sに相当する風が吹き荒れている状況でもサッシから雨水が浸入しないということです。

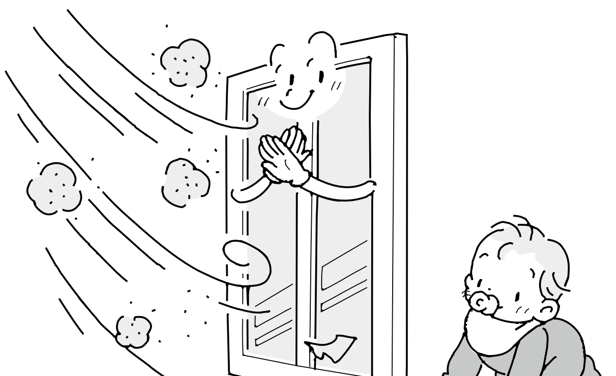
また、引違いサッシの水密構造は下記のようになっています。①風圧力に押されてイの経路で下枠内に水が浸入します。②下枠内にある程度の水がたまると、ロの部分では水の重力で浸水を押し返そうとする力が働き、バランスをとります。(注:ロの部分にたまる水は漏水ではありません。漏水の判断基準は、サッシ枠をこえて屋内に雨水が入ることを言います。)
この構造では、水と風圧力がかかると下枠内にも水が入り、また圧力がなくなってもアルミとの表面張力によってわずかに水が残ることがあります。
お客様によっては、この水がたまることによって不安感を持たれることがあるかもしれませんが、これは住宅用サッシの構造上起こりえることであり、機能·性能の悪さによるものではありません。
また、気密ピースが未調整の場合強風時には、吹き上げがありますので気密ピースを調整してください。





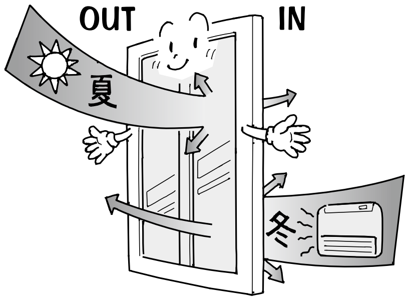
2. 気密性

気密性とは、サッシドアの枠と戸のすき間から、どれくらいの空気(すき間風)がもれるかを表す性能で、その量が少ないほど気密性がよいということになります。
また、気密性はJISで決められている等級で表し、A−1、A−2、A−3、A−4の順に気密性がよくなります。
一般サッシではA−3、断熱サッシはA−4の等級が必要とされ、A−3等級とは、風速4m/sに相当する風が正面から当たっている時に、面積1m^2あたり1時間に、最大8m^3の漏気量(空気がもれる量)が許容されており、A−4等級とは同じ風速4m/sで、最大 2m^3の漏気量が許容されているサッシドアのことです。
ここで言う風速4m/sに相当する風とは木の葉や小枝が動き続ける程度の風の強さのことです。



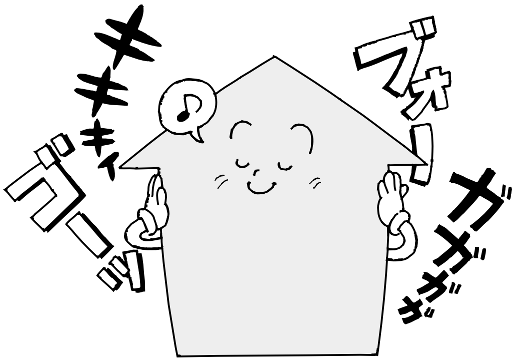
3. 断熱性

断熱性とは、熱が移動するのをどれくらい抑える事ができるかを表す性能です。
また、断熱性はJISで決められている等級で表し、H—1、H—2、H—3、H—4、H—5の順に断熱性がよくなります。
断熱性能の基準としては、上記のJIS基準以外に建設省による告示（地域区分による基準値の設定）があります。
住宅に求められる断熱性能はそれらの基準に基づき、住宅金融公庫の基準金利適合条件や割増融資条件、その他の融資制度などに適合する断熱性能として地域ごとに設定されています。



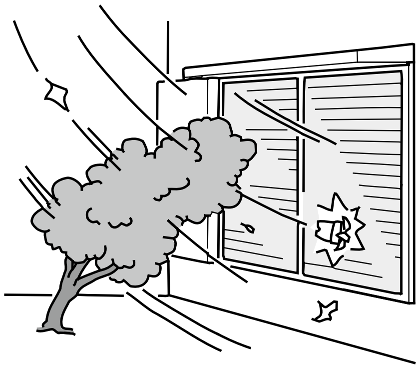
4. 遮音性

遮音性とは、室外から室内へ侵入する音、室内から室外へ漏れる音をどれくらい遮ることができるかを表す性能です。
また、遮音性はJISで決められている等級で表し、T—1、T—2、T—3、T—4の順に遮音性がよくなります。
一般的に、住宅の場合、T−1、T−2、T−3の等級のサッシが使用されています。それぞれの等級の性能は、外部の騒音を T−1等級で25dB、T—2等級で30dB、T−3等級で35dBで遮音することができることを言います。例えば、外部で80dB（道路の交差点等）ある場所にT−1等級の性能を持つサッシをいれると55dBまで、下げることができるということになります。また、部屋内に厚地のカーテンやじゅうたんなど吸音効果のあるものを使用することも遮音対策に効果的です。



5. 耐風圧性

耐風圧性とは、台風などの強風によってサッシやドアが変形したり、ガラスが割れたり、また障子が脱落することがないように、サッシやドアがどれくらいの風圧に耐えられるかを表す性能です。
また、耐風圧性はJISで決められている等級で表し、S−1、S−2、S−3の順に耐風圧性が高くなります。
一般的に、住宅の場合、1階の窓でS−1、2階の窓でS−2、3階の窓でS−3の等級が必要とされています。
S−1等級とは、最高圧力80kgf/m^2（風速36m/s程度）、S−2で最高圧力120kgf/m^2（風速44m/s程度）、S−3で最高圧力160kgf/m^2（風速50m/s程度）の風圧に対し、変形してもその変形量は基準以下で、サッシに変形が残ったり、破損したりすることのない性能のことです。



6. 防犯性

就寝や外出時には、玄関ドアのメインロックとサブロック及び窓のクレセント錠とサブロックをかけると、防犯性が高まります。

第7章 アフターメンテナンスについて

保証について

保証期間中は、保証の規程にしたがって修理をさせていただきます。
保証期間中でも有料になる場合がありますので**「■商品保証について」**の内容をよくご確認ください。

保証期間を過ぎている場合は、ご希望により有料で修理をさせていただきます。
修理用部品の保有期間が過ぎている場合は、修理ができないこともあります。

修理を依頼されるときは

点検及び修理を依頼される前に、各商品の『**取扱い説明書**』をもう一度ご確認の上、それでも故障が直らない場合やご不明な点がある場合は、商品をお求めの施工店、工務店、販売店または当社「お客様相談センター 」にご相談ください。
その際、下記のことをご連絡ください。

①ご住所・お名前・電話番号
②商品名・品番
③ご購入日またはご入居日
※分譲住宅（建売)、分譲マンションは建設業者から売主への引渡し日となります。
④故障または異常の内容
⑤訪問ご希望日

個人情報の取り扱いについて

当社は、当社商品のユーザー様および流通業者様等の個人情報を商品納入に当たって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンスその他目的のために利用いたします。当社の個人情報の取り扱いについて詳しくは当社ホームページの『プライバシーポリシー』をご覧ください。

点検及び修理の依頼先

・お求めの取扱い店
・製品に表示している連絡先
・お客様相談センター　0120-126-001

点検及び修理料金のしくみ

修理料金は技術料・部品代・出張料などで構成されています。
技術料は、点検及び故障個所の修理及び部品交換・調整などの作業にかかる費用です。
部品代は、修理に使用した部品代です。
出張料は、修理士を派遣する場合の費用です。
なお修理により交換した部品・製品は、特段のお申し出がない場合は当社にて引き取らせていただきます。

修理用部品の保有期間

この商品の修理用部品（機能を維持する為に必要な部品・代替品含む）の最低保有期間は、製造終了後 10 年です。
※機器類など専用の取扱い説明書があるものは除きます。添付の取扱い説明書をご確認ください。

キッチン、洗面化粧台、室内建具などの扉・引出しなどの面材については、販売終了後 2 年としております。
2 年経過後は、新シリーズの面材を供給させていただきます。ただし 2 年に満たない場合でも、面材の供給が難しい場合は、新シリーズの類似面材を供給させていただくこともありますのでご了承ください。

交換用部品について

お客様ご自身でお取替えいただける部品については、ホームページよりご注文いただけます。
トステムパーツショップ　**http://partsshop.tostem.co.jp/shop/**

掲載のない部品につきましては、お求めの取扱い店または当社お客様相談センターにご連絡ください。

第8章 商品の保証について

本書は、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において無料修理を行うことをお約束するものです。保証期間中、商品に故障、損傷などの不具合（以下「不具合」といいます）が発生した場合には、お取り扱いの施工店、工務店、販売店又は当社お客様相談センターにご相談ください。

■ 対象商品　　サッシ･ドア商品

■ 保証期間　　施工者よりの引き渡し日（注1･注2）から2年間（電装部品については1年間）
但し、商品からの雨水浸入については10年間とします。
注1）改修工事の場合は、改修部分の工事完了の日とします。
注2）分譲住宅（建売住宅）･分譲マンションの場合は、建築主様への引き渡し日とします。

■ 保証内容　　取扱説明書、本体ラベル又はその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に商品そのものに不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項に該当する場合を除き無料修理いたします。
なお、強風雨時に、サッシ下枠に雨水がたまることがありますが、これは商品上の特性であり不具合ではありません。不具合といえる雨水浸入は、サッシ下枠を越えて雨水が流れ出たり、あふれ出たりすることです。

■ 免責事項　　保証期間内でも、次の様な場合には有料修理となります。

①当社の手配によらない加工、組立て、施工、管理、メンテナンスなどに起因する不具合
（例えば、海砂や急結材を使用したモルタルによる腐食。中性洗剤以外のクリーニング剤を使用したことによる変色や腐食。工事中の養生不良に起因する変色や腐食など）
②表示された商品の性能を超えた性能を必要とする場所に取付けられた場合の不具合
③建築躯体の変形など商品以外の不具合に起因する商品の不具合
④商品又は部品の経年変化（使用に伴う消耗、磨耗など）や経年劣化（樹脂部品の変質、変色など）又はこれらに伴うさび、かびなどその他類似の不具合
⑤商品周辺の自然環境、住環境などに起因する結露、腐食又はその他の不具合
（例えば、塩害による腐食。大気中の砂塵、煤煙、各種金属粉、亜硫酸ガス、アンモニア、車の排気ガスなどが付着して起きる腐食。異常な高温･低温･多湿による不具合など）
⑥商品又は部品の材料特性に伴う現象
（例えば木製品の反り、干割れ、色あせ、木目違い、ふし抜け、樹液のにじみ出しなど）
⑦天災その他の不可抗力（例えば、暴風、豪雨、高潮、地震、落雷、洪水、地盤沈下、火災など）による不具合又はこれらによって商品の性能を超える事態が発生した場合の不具合
⑧施工当時実用化されていた技術、知識では予測することが不可能な現象又はこれが原因で生じた不具合
⑨犬、猫、鳥、鼠などの小動物に起因する不具合
⑩引き渡し後の操作誤り、調整不備又は適切な維持管理を行わなかったことによる不具合
（例えば、クレセント･錠などの部品が、使用中にがたついたり異音などが発生し、異常が生じたまま使用し続けたことが原因で発生した傷･破損などの不具合）
⑪お客様自身の組立て、取付け、修理、改造（必要部品の取外しを含む）に起因する不具合
⑫本来の使用目的以外の用途に使用された場合の不具合又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
⑬犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合

＊保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。
＊本書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お取り扱いの施工店、工務店、販売店又は当社お客様相談センターにお問合わせください。

お客様メモ

●ご購入の際、記入しておかれますと便利です。

施工完了日	年　　月　　日
施工・工務店	社名 Tel　－　－
販　売　店	社名 Tel　－　－
お近くの当社営業所	支店・営業所 Tel　－　－
商品名	

メ　モ

TOSTEM

トステム商品に関するお問合せは、お客様相談センターまで

商品のご購入・使い方などのご相談／有償での修理と部品のご購入

0120-126-001　Fax03-3638-8447

受付時間・・・・月～金 9:00～18:00(祝祭日、年末年始、夏期休暇等は除く)
外壁材に関する商品相談は・・・・旭トステム外装(株)サービスデスクナビダイヤル 0570-001-117
店舗関連商品に関する商品相談は・・・・Tel 03-3638-8152　月～金 9:00～17:00(祝祭日、年末年始、夏期休暇等は除く)

商品改良のため、予告なしに仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。

個人情報の取り扱いについて

当社は、当社商品のユーザー様および流通業者様等の個人情報を商品納入に当たって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンスその他目的のために利用いたします。当社の個人情報の取り扱いについて詳しくは当社ホームページの『プライバシーポリシー』をご覧ください。

LIXIL
Link to Good Living

トステム・INAX・新日軽・サンウエーブ・東洋エクステリアは、2011年4月1日より、
株式会社LIXILとしてお客さまの多様なニーズに対応した商品とサービスを提供してまいります。

TOSTEM

サッシ・雨戸・窓シャッター・窓まわり商品　玄関ドア・引戸　取扱い説明書

株式会社 LIXIL

会社や商品についての情報のご確認は、下記ホームページまで
http://www.lixil.co.jp/
商品改良のため、予告なしに仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。

取説番号	MAH-574M	事業所コード	ZZB2	2011.7.1 発行

MAH574M

LIXIL